

Windows NT 用インストールガイド

iPlanet Messaging Server

リリース5.1

816-1459-01
2001年5月

Copyright © 2000 Sun Microsystems, Inc. Some preexisting portions Copyright © 2000 Netscape Communications Corp. All rights reserved.

Sun Microsystems のロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Netscape と Netscape N のロゴは、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の登録商標です。その他の Netscape のロゴ、製品名、およびサービス名は、Netscape Communications Corporation の商標であり、その他の国でも登録されている場合があります。

米国政府による本製品の取得については、「Commercial Software-Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions」の条項が適用されます。

本書に記載の製品は、使用法、コピー、配布、逆コンパイルを制限した使用許諾規定の下に配布されます。製品または本書の全部または一部を、Sun-Netscape Alliance およびそのライセンス交付者の書面による許可がない場合、いかなる手段によっても複製することが禁じられています。

本書は、「現状のみ」で提供されています。また、法律的にこれらの否認が無効であると見なされる範囲を除き、商品性、特定の目的への適合性、または不侵害性に対する黙示的保証を含む、すべての明示的、暗示的な条件、表現、保証に対して責任を負わないものとします。

目次

このマニュアルについて	7
対象読者	8
お読みになる前に	8
内容の紹介	9
表記上の規則	9
クーリエ (courier) フォント	10
太字クーリエ (bold-courier) フォント	10
イタリック (italic)	11
角括弧	11
関連マニュアル	12
このマニュアルをオンラインで参照するには	12
第1章 インストールの準備	13
インストールの概要	14
システム要件	15
ハードウェア要件	15
ソフトウェア要件	15
Messaging 製品群の概略図	16
インストールコンポーネント	17
Netscape Server Core	17
Netscape 製品主要コンポーネント (Netscape Console 4.2)	17
Netscape Core Java クラス	17
Java Runtime Environment (JRE)	17
Netscape Directory Suite	18
Netscape Directory Server	18
Netscape Directory Server Console	18
Administration Services	18
Netscape Administration Server	18
Administration Server Console	18
iPlanet Messaging Applications	19
iPlanet Message Store and Message Access (MSMA)	19

iPlanet Message Transfer Agent (MTA)	19
iPlanet Messaging Multiplexor (MMP)	19
iPlanet Delegated Administrator for Messaging Command Line Utilities (iDA)	19
製品階層および相互の関連性	20
インストールするコンポーネントとサブコンポーネントの依存関係	20
ポート番号	21
各製品をいつ、どこにインストールするか	22
iPlanet Delegated Administrator for Messaging のインストールに必要な情報	23
既存の Directory Server の構成	23
Configuration Directory Server の選択	24
管理ドメイン	24
Users and Groups Directory Server の選択	25
インストールの種類	26
インストールのガイドライン	27
インストール手順	28
iPlanet Messaging Server インストールチェックリスト	29
第 2 章 インストール手順	31
インストールの前に	32
Messaging Server のインストールファイルの転送	32
Web からダウンロードする場合	32
CD からコピーする場合	32
ims_dssetup スクリプトの実行	34
setup プログラムの実行	36
サイレントインストール	37
インストールシナリオ	39
シナリオ 1: Messaging Server と Directory Server を同じマシンにインストールする	40
シナリオ 2: 既存の Configuration Directory Server と Users and Groups Directory Server を 使用して Messaging Server をインストールする	42
シナリオ 3: 既存の Users and Groups Directory Server と新規の Configuration Directory Server を使用して Messaging Server をインストールする	44
インストール後の設定	46
共通の User and Group Directory を使用する Messaging Server	46
2 番目の Messaging Server にサービス管理者グループを追加する	47
第 3 章 インストールに関する質問	49
各インストールタイプで表示されるダイアログボックス	50
共通の質問	53
コンポーネントに関する質問	59
Directory Server に関する質問	61
Administration Server に関する質問	73
Messaging Server に関する質問	76

付録 A Messaging Multiplexor のインストール	91
Multiplexor のインストールと構成	92
インストールの前に	92
Multiplexor のファイル	93
Multiplexor のインストール	94
SSL を使用した MMP の構成	105
追加のインスタンスの作成	107
既存のインスタンスの変更	107
Multiplexor の起動	108
メッセージングトポロジの例	108
IMAP の構成例	109
POP の構成例	111
付録 B uninstall プログラムの使用	113
索引	115

このマニュアルについて

このマニュアルでは、iPlanet Messaging Server 5.1 for Windows NT および添付ソフトウェアコンポーネントのインストール方法について説明します。Messaging Server は、オープンインターネット規格を使用する様々な規模の企業およびメッセージングホストの電子メールに関するニーズに応え、強力で柔軟なクロスプラットフォーム対応のソリューションを提供します。

この章は、次の節から構成されています。

- 対象読者
- お読みになる前に
- 内容の紹介
- 表記上の規則
- 関連マニュアル
- このマニュアルをオンラインで参照するには

対象読者

このマニュアルは、自分のサイトに **Messaging Server** をインストールおよび導入する担当者を対象としています。

注 インストールプログラムには、Netscape Messaging Server または Sun Internet Mail Server 製品の既存のメールボックスやメッセージキューを、iPlanet Messaging Server または新しくインストールするサーバ用に移行するオプションは用意されていません。既存のデータを移行する場合は、『iPlanet Messaging Server 5.0 移行ガイド』を参照してください。

お読みになる前に

このマニュアルは、**Messaging Server** ソフトウェアのインストール担当者を対象としており、以下のことに関する一般的な知識を持っていることを前提としています。

- インターネットおよび WWW (World Wide Web)
- Netscape Administration Server
- Netscape Directory Server および LDAP
- Netscape Console
- Windows NT の管理

内容の紹介

このマニュアルは、次の章および付録から構成されています。

- このマニュアルについて (この章)
- 第 1 章「インストールの準備」

この章では、インストールを開始する前に知っておくべき情報について説明しています。システム要件、インストールオプション、およびインストールするコンポーネントの説明などが含まれています。

- 第 2 章「インストール手順」

この章では、`setup` プログラム、ディレクトリの `setup` プログラム、およびサイレントインストールの実行方法を学びます。さらに、一般的なインストールシナリオとインストール後の構成方法について、順を追って説明します。

- 第 3 章「インストールに関する質問」

この章では、適切なインストールを行うために、**Messaging Server** のインストール時に尋ねられる質問と、それらの質問に答える方法を示します。

- 付録 A「**Messaging Multiplexor** のインストール」

この付録では、**Messaging Multiplexor** のインストールと起動の詳細な手順を説明します。さらに、構成ファイルのサンプルも掲載しています。**Messaging Multiplexor** のより詳細な情報は、『**iPlanet Messaging Server 5.1 管理者ガイド**』および『**iPlanet Messaging Server 5.1 リファレンスマニュアル**』を参照してください。

- 付録 B「`uninstall` プログラムの使用」

この付録では、`uninstall` プログラムを実行して **Messaging Server** のインスタンスを削除する方法を説明します。

表記上の規則

このマニュアルでは、ファイルおよびディレクトリのパスは、Windows 形式 (ディレクトリ名をバックスラッシュで区切る形式) で示されています。ほかの **iPlanet Messaging Server** のマニュアルを参照する場合、ファイルおよびディレクトリのパスが UNIX 方式 (ディレクトリをスラッシュで区切る形式) で示されていることがあります。

クーリエ (courier) フォント

クーリエ (Courier) フォントは、コンピュータ画面に表示されるテキストまたはユーザが入力するテキストに使用されます。また、ファイル名、特別な名前、機能、および例にも使用されます。

太字クーリエ (bold-courier) フォント

太字クーリエ (bold-courier) フォントは、コーディング例の中でユーザが入力する必要があるテキストに使用されます。たとえば、次のように使用されます。

`setup`



この例では、`setup` はコマンドプロンプトで入力するテキストであり、それ以外の部分は結果として表示されるものを示します。

イタリック (*italic*)

イタリック (*italic*) は、インストール状況に応じた固有の情報 (変数など) を使用して入力するテキストに使用されます。また、サーバのパスや名前、アカウント ID にも使用されます。

たとえば、このマニュアルでは、パスの参照は次の形式で示されています。

```
server-root\msg-serverID\...
```

この場合、*server-root* は、サーバをインストールするディレクトリパスを示し、*msg-serverID* は、インストール時に使用するサーバインスタンスを示します。たとえば、`c:\iplanet\server5` ディレクトリにサーバをインストールして、*tango* というサーバインスタンスを使用する場合、実際のパスは次のようになります。

```
c:\iplanet\server5\msg-tango\
```

角括弧

角括弧 ([]) は、オプションパラメータを囲むときに使用されます。たとえば、このマニュアルでは、`setup` コマンドの使用方法が次のように示されています。

```
setup [options] [argument]
```

次のように、`setup` コマンドを単体で実行すれば、**Messaging Server** のインストールを開始できます。

```
setup
```

[*options*] および [*arguments*] は、`setup` コマンドに追加できるオプションパラメータがあることを示しています。たとえば、次のように、`setup` コマンドに `-k` オプションを付けて指定すると、インストールキャッシュを保持できます。

```
setup -k
```

関連マニュアル

Messaging Server には、このマニュアルのほかに、管理者向けの補足情報、およびエンドユーザや開発者向けのマニュアルが用意されています。次の URL を使用すると、Messaging Server のすべてのマニュアルを参照できます。

<http://docs.iplanet.com/docs/>

利用できる関連マニュアルは次のとおりです。

- 『iPlanet Messaging Server 5.1 管理者ガイド』

注 専門用語をまとめた用語集は、この管理者ガイドに収められています。

- 『iPlanet Messaging Server 5.1 リファレンスマニュアル』
- 『iPlanet Message Server 5.0 移行ガイド』
- 『iPlanet Messaging Server 5.0 Schema Reference』
- 『iPlanet Messaging Server 5.0 プロビジョニングガイド』
- 『iPlanet Delegated Administrator for Messaging インストールガイド』

iPlanet Messaging Server の製品群には、Netscape Console、Directory Server、Administration Server など、ほかの製品も含まれています。iPlanet Messaging Server 製品およびその他の製品のマニュアルは、次の URL で参照できます。

<http://docs.iplanet.com/docs/>

このマニュアルをオンラインで参照するには

『Messaging Server インストールガイド』は、PDF 形式および HTML 形式で、オンラインで参照できます。このインストールガイドを参照するには、次の URL を使用します。

<http://docs.iplanet.com/docs/>

インストールの準備

この章では、iPlanet Messaging Server 5.1 を Windows NT の稼動するマシンにインストールするための準備段階について説明します。この章には次の節が含まれています。

- インストールの概要
- システム要件
- Messaging 製品群の概略図
- インストールコンポーネント
- 製品階層および相互の関連性
- 既存の Directory Server の構成
- インストールの種類
- インストールのガイドライン
- インストール手順
- iPlanet Messaging Server インストールチェックリスト

インストールの概要

iPlanet Messaging Server 5.1 のインストールは、iPlanet サーバ製品に共通のインストールプログラムを使用して行われます。このプログラムを使用すると、iPlanet サーバ製品群全体に渡って一貫性のある、インストール時のインタフェースおよび操作手順が使用できます。

さらに、Messaging Server には、インストールの仕上げやアップグレード、さまざまなサーバプロセスの停止および起動、アップグレード済みサーバへの既存ユーザの移行などを実行するための各種ツールが装備されています。

Messaging Server をインストールする前に、インストール先のシステムが製品の必須要件を満たしていることを確認してください。また、Messaging Server コンポーネント、およびコンポーネントが使用するディレクトリスキーマに関する一般的な内容を事前に学習しておくことも必要です。これらに関する知識が十分でない場合、インストールを開始する前に『iPlanet Messaging Server 5.0 プロビジョニングガイド』の第 1 章をお読みください。インストール作業を開始する前に、ソフトウェアコンポーネントの構成方法を計画しておくことをお勧めします。

Messaging Server インストールプログラムには、このリリースの Messaging Server をインストールするために必要なものすべてが含まれています。以下に例を示します。

- Messaging Server
- iPlanet Web Server Enterprise Edition SP7 (Service Pack 7)
- Netscape Administration Server 4.2
- Netscape Directory Server 4.13
- Netscape Console
- iPlanet Delegated Administrator for Messaging
- iPlanet Messaging Server Directory 設定スクリプト (ims_dssetup.pl) - 既存の Directory Server がある場合

Directory Server がインストールされていない場合、Messaging Server のインストール中に Directory Server 4.13 をインストールできます。4.1x Directory Server がすでにインストールされている場合、最初に ims_dssetup.pl ユーティリティを実行してディレクトリの準備を整えてから、Messaging Server をインストールしてください。詳細は、23 ページの「既存の Directory Server の構成」を参照してください。

システム要件

この節では、Messaging Server のインストールに必要なハードウェアおよびソフトウェアの必要条件 (要件)、および Messaging Server をインストールするために必要なインストール権限の概要を説明します。インストールを実行する前に、これらの要件が満たされていることを確認してください。

ハードウェア要件

Messaging Server の必須ハードウェア要件を、次に示します。

標準インストールの場合、約 500M バイトのディスク容量。本稼動システムの場合には、製品バイナリのサポート用に 1G バイト以上を確保する必要があります。

- 64M バイトの RAM。本稼動システムの場合、256M バイト以上の RAM。サイトのサイズおよびユーザ数に応じて、適切な容量の RAM を割り当てる必要があります。
- ユーザのメールボックス (メッセージストア)、データベース、ログファイル、およびメッセージキューディレクトリに十分な容量が必要です。サイトのサイズにより、これらの値が大幅に増加する場合があります。このため、サイトのサイズに応じて適切な容量を割り当ててください。
- 高速アクセス用 RAID (Redundant Array of Independent Disk) 記憶域 (オプション)

ソフトウェア要件

Messaging Server は、Service Pack 6A (SP6A) を含む Windows NT Server 4.0 プラットフォーム上で動作します。このマニュアルは、Windows NT の稼動するマシンへのインストールについてのみ説明しています。Solaris および HP-UX へのインストールに関しては、『Messaging Server UNIX 用インストールガイド』を参照してください。

iPlanet Delegated Administrator のコマンドラインユーティリティを使用する場合は、製品 CD または iPlanet Web サイトから iPlanet Delegated Administrator for Messaging もインストールする必要があります。詳細は、『iPlanet Messaging Server Delegated Administrator for Messaging インストールおよび管理ガイド』を参照してください。

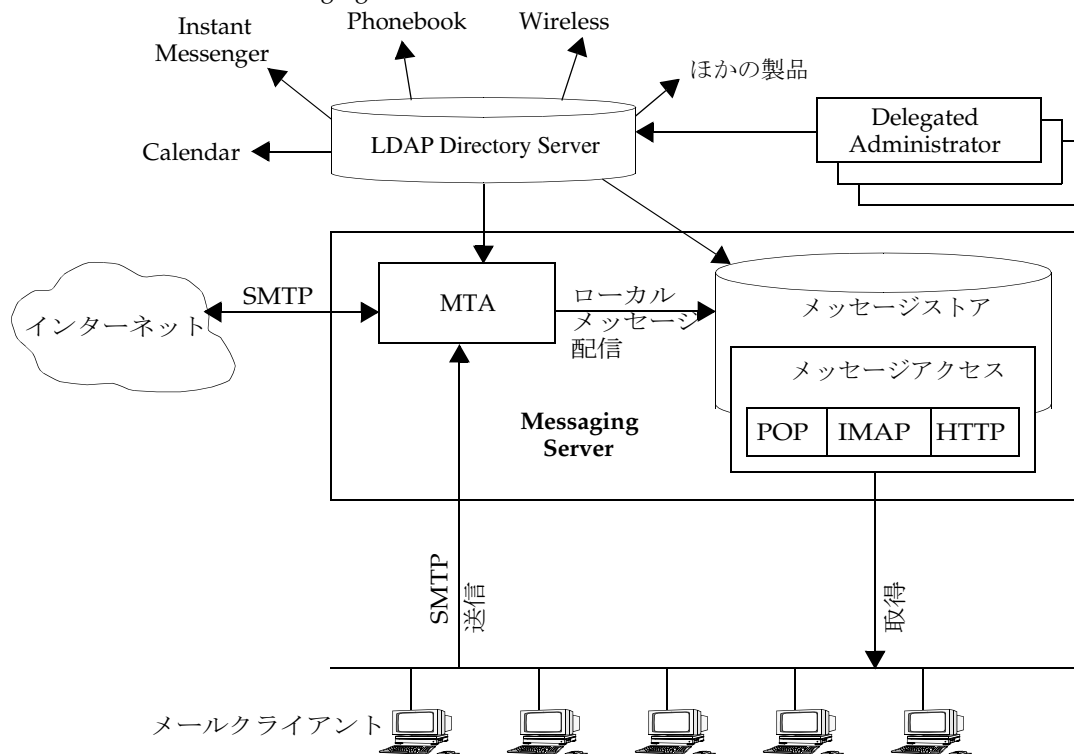
Messenger Express を使用するには、Messaging Server に JavaScript 対応のブラウザが必要です。最適なパフォーマンスを得るため、iPlanet では次のブラウザの使用をお勧めします。

- Netscape Navigator 4.7 またはそれ以降
- Internet Explorer 5.0 またはそれ以降

Messaging 製品群の概略図

図 1-1 に、Messaging 製品群のさまざまな製品やコンポーネントの関係を示します。

図 1-1 Messaging 製品群の製品およびコンポーネント



インストールコンポーネント

Messaging Server 製品群には、次の個別のソフトウェアコンポーネントが含まれます。

- Netscape Server Core
- Netscape Directory Suite
- Administration Services
- iPlanet Messaging Applications

Netscape Server Core

インストール時に、Netscape Server Core をインストールするかどうかを選択できます。Netscape Server Core には、次の項で説明する製品およびコンポーネントが含まれています。

- Netscape 製品主要コンポーネント (Netscape Console 4.2)
- Netscape Core Java クラス
- Java Runtime Environment (JRE)

Netscape 製品主要コンポーネント (Netscape Console 4.2)

Netscape Console によって、すべての Netscape および iPlanet サーバ製品で共通のインタフェースを使用できます。Netscape Console からは、SMTP 対応ではないサーバの停止および起動、新規サーバインスタンスのインストール、ユーザおよびグループ情報の管理などの一般的なサーバ管理機能を実行できます。Netscape Console は、ネットワーク上の任意のマシンに単体でインストールでき、リモートサーバの管理に使用できます。

Netscape Core Java クラス

この Java クラスは、Netscape および iPlanet サーバ製品の主要コンポーネントを実行およびサポートします。

Java Runtime Environment (JRE)

このツールおよびバイナリは、Netscape および iPlanet サーバ製品主要コンポーネントの実行およびサポートに必要です。

Netscape Directory Suite

ここでは、Netscape Directory Suite に含まれる次の製品について説明します。

- Netscape Directory Server
- Netscape Directory Server Console

Netscape Directory Server

Netscape Directory Server は、LDAP に準拠した iPlanet サーバで、ディレクトリデータベースサービスを管理し、Messaging Server などの LDAP クライアントからの要求に応答します。Netscape Directory Server は、マシン上で `ns-slapd` プロセスとして実行されます。

Netscape Directory Server Console

これは、Netscape Directory Server と共に使用することを前提に設計された、Netscape Console の一部です。Netscape Directory Server Console からは、サーバの起動と停止、アクセス制御の管理、サーバログの表示と構成、ディレクトリデータベースのバックアップと復元など、Directory Server 管理タスクの大半を実行できます。

Administration Services

ここでは、Administration Services インストールコンポーネントに含まれる次の製品について説明します。

- Netscape Administration Server
- Administration Server Console

Netscape Administration Server

Netscape Administration Server は、Netscape Console から送信された情報を受け取り、それを適切な iPlanet サーバに渡します。サイトには、iPlanet サーバのインストールされたサーバルートごとに少なくとも 1 つの Administration Server が必要です。

Administration Server Console

これは、Netscape Administration Server と共に使用することを前提に設計された、Netscape Console の一部です。Administration Server Console からは、サーバの起動と停止など、大半の Administration Server タスクを実行できます。

iPlanet Messaging Applications

ここでは、Messaging Applications インストールコンポーネントに含まれる製品およびコンポーネントについて説明します。UNIX 版の Messaging Server とは異なり、Windows NT 版には High Availability (高可用性) モデルは存在しません。Messaging Applications には、次のコンポーネントが含まれています。

- iPlanet Message Store and Message Access (MSMA)
- iPlanet Message Transfer Agent (MTA)
- iPlanet Messaging Multiplexor (MMP)
- iPlanet Delegated Administrator for Messaging Command Line Utilities (iDA)

iPlanet Message Store and Message Access (MSMA)

Messaging Server は、メッセージストアを介して、一貫性のあるメッセージングサービスを提供します。メッセージストアには、HTTP、POP、および IMAP プロトコルを介してアクセスできます。Message Access コンポーネントは、メッセージストアからのメッセージの取得を担当します。

iPlanet Message Transfer Agent (MTA)

MTA は、ユーザメールの経路指定と配信や、SMTP 認証の処理などのタスクを実行します。MTA は、ホストドメイン、ドメイン別名、サーバ側フィルタなどの機能をサポートします。

iPlanet Messaging Multiplexor (MMP)

MMP は、複数の Messaging Server インスタンスへの単一の接続ポイントとして機能するプロキシサーバです。大規模なメールサービスプロバイダは、MMP を使用することにより、POP および IMAP ユーザメールボックスを多数のマシンに分散して、メッセージング機能を向上させることができます。すべてのユーザは、単一の Multiplexor サーバに接続します。Multiplexor サーバは、各接続を適切なメールサーバにリダイレクトします。

MMP インストールの詳細は、付録 A 「Messaging Multiplexor のインストール」を参照してください。

iPlanet Delegated Administrator for Messaging Command Line Utilities (iDA)

iDA のコマンドラインユーティリティ (CLI) では、ドメイン、ユーザ、およびグループを規定できます。これらのユーティリティを使用して、ドメイン管理者に権限を付与することもできます。

製品階層および相互の関連性

この節では、インストールコンポーネントおよびサブコンポーネント内の依存関係の概要、ポート番号の決定方法、およびインストールした製品間の相互の関連性について説明します。

インストールするコンポーネントとサブコンポーネントの依存関係

Messaging Server の各コンポーネントには、複数のサブコンポーネントが含まれています。各種のコンポーネントと一緒にインストールできるかどうかは、コンポーネント間の依存関係に左右されます。表 1-1 に、コンポーネントおよびサブコンポーネントの依存関係を示します。

表 1-1 Messaging Server コンポーネントおよびサブコンポーネントの依存関係

サブコンポーネント	対応するコンポーネントグループ	依存する製品およびコンポーネント
Netscape Server 製品主要コンポーネント	Netscape Server 製品主要コンポーネント	なし
Netscape Core Java クラス	Netscape Server 製品主要コンポーネント	なし
Java Runtime Environment	Netscape Server 製品主要コンポーネント	なし
Netscape Directory Server	Netscape Directory Suite	Netscape Server 製品主要コンポーネント Netscape Administration Server
Netscape Directory Server Console	Netscape Directory Suite	なし
Netscape Administration Server	Administration Services	Netscape Server 製品主要コンポーネント
Administration Server Console	Administration Services	Netscape Server 製品主要コンポーネント
iPlanet Message Store and Message Access	iPlanet Messaging 製品群	Administration Services コンポーネント
iPlanet Internet Message Transport Agent	iPlanet Messaging 製品群	Administration Services コンポーネント
iPlanet Messaging Multiplexor	iPlanet Messaging 製品群	iPlanet メッセージングライブラリ

表 1-1 Messaging Server コンポーネントおよびサブコンポーネントの依存関係 (続き)

サブコンポーネント	対応するコンポーネントグループ	依存する製品およびコンポーネント
iPlanet Delegated Administrator Command Line Utilities	iPlanet Messaging 製品群	なし

ポート番号

インストール プログラムの実行中には、さまざまなサービス用のポート番号を選択する必要があります。ポート番号には、1 ~ 65535 までの任意の番号を指定できます。インストール時に **Messaging** 製品間でのポート番号の衝突を避けるため、サービスごとに異なるポート番号を指定してください。手順どおりに作業を続けると、インストールが終了するまでに、次のポート番号が設定されることとなります。

- ユーザやサービスの管理およびプロビジョニングを行うための標準ディレクトリサーバの LDAP ポート (デフォルト : 389)
- Netscape Console の要求を待機する管理サーバの HTTP ポート (記憶しやすいポート番号を選択してください)
- Messenger Express (Webmail) の HTTP ポート (デフォルト : 80)
- Delegated Administrator for Messaging の HTTP ポート (デフォルト : 8080)。このポートは、iPlanet Web Server User HTTP ポートに対応します。詳細は、『iPlanet Delegated Administrator for Messaging and Collaboration インストールおよび管理ガイド』を参照してください。

インストール中に、次のデフォルトポート番号が指定されます。ただし、「**Custom Installation**」を選択する (またはいずれかのポート番号が使用中である) 場合は、これらのポート番号は変更できます。

- POP3 (デフォルト : 110)
- IMAP4 (デフォルト : 143)
- SMTP (デフォルト : 25) - ポート 25 で稼働中の SMTP サーバが存在する場合 (Microsoft Exchange など)、ポート設定を変更する必要があります。稼働中のサーバを停止してから **Messaging Server** をポート 25 で実行するか、[**Custom Installation**] を選択して別の SMTP ポートを **Messaging Server** 用に指定してください。Custom Installation の詳細は、26 ページの「インストールの種類」を参照してください。

Directory Server が標準のポート番号を使用する場合、Administration Server は管理者権限を保持する必要があります (1024 より小さいポート番号にアクセスできるのは、root として認証されたユーザアカウントだけです)。

ヒント インストール時に指定したすべてのポート番号、およびそのポート番号を使用するコンポーネントを記録しておくことをお勧めします。29 ページの表 1-2 を参照してください。

各製品をいつ、どこにインストールするか

この製品に含まれる Directory Server の代わりに、既存の Directory Server を使用することも可能です。その場合、Messaging Server をインストールする前に、既存の Directory Server に対して `ims_dssetup.pl` を実行する必要があります (34 ページの「`ims_dssetup` スクリプトの実行」を参照)。詳細は、23 ページの「既存の Directory Server の構成」を参照してください。

iPlanet Web Server は、Delegated Administrator と同じマシンにインストールする必要があります。Messaging Server は、Delegated Administrator とは異なるマシンにインストールできます。Web Server が存在しないと、Delegated Administrator for Messaging は動作しません。このため、Delegated Administrator for Messaging をインストールする前に Web Server をインストールする必要があります。

Delegated Administrator は、Messaging Server の直後にインストールする必要があります。Delegated Administrator をインストールする前に Messaging Server の設定を行うと、Delegated Administrator のインストール時に問題が発生する可能性があります。

ヒント インストールは、Messaging Server、Web Server、Delegated Administrator の順に実行することをお勧めします。

iPlanet Delegated Administrator for Messaging のインストールに必要な情報

Delegated Administrator のインストールには、Messaging Server のインストール情報が必要です。Messaging Server のインストール前またはインストール中に、情報を 29 ページの表 1-2 に正確に記録してください。Messaging をインストールする際に、次の iPlanet Delegated Administrator 関連情報を記録しておいてください。

- Users and Groups Directory Server の LDAP URL
- Directory Manager のバインド DN とパスワード
- POP3、IMAP、SMTP、および Messenger Express (Web メール) の TCP/IP ポート番号の Messenger Express (Webmail) ポート
- サービス管理者 (Delegated Administrator のトップレベル管理者とも呼ばれる) のログイン ID とパスワード
- Messaging Server のホスト名とドメイン名
- iPlanet Delegated Administrator for Messaging Web Server のホスト名とポート

既存の Directory Server の構成

この節では、Messaging Server のインストールに備えて、既存の Directory Server を構成する方法を説明します。既存の Directory Server が存在しないか、または Messaging Server に含まれる Directory Server をインストールする場合は、この節を読む必要はありません。

Messaging Server は、Netscape Directory Server 4.1x と互換性があります。Messaging Server と Directory Server は、同じプラットフォーム上でインストールおよび実行する必要があります。Messaging Server は Solaris 2.6 または Solaris 8、HP-UX 11.00、または Windows NT 4.0 で実行する必要がありますが、Directory Server は任意のプラットフォームで実行可能です。たとえば、Solaris 上で稼動する Directory Server は、HP-UX または Windows NT 上で稼動する Messaging Server に LDAP サービスを提供できます。

注 既存の Directory Server を Messaging Server と共に使用する場合、34 ページの「ims_dssetup スクリプトの実行」の説明に従い、ims_dssetup.pl を使用して Directory Server を構成する必要があります。

Configuration Directory Server の選択

すべての iPlanet サーバは、Directory Server を使用して構成情報を保管します。この情報は、`o=NetscapeRoot` ディレクトリツリーに保管されます。構成ディレクトリには、サーバが使用する `o=NetscapeRoot` ツリーを含む Directory Server が使用されます。詳細は、Directory Server のマニュアルを参照してください。

Directory Server を設定する場合、管理構成の設定を単一の LDAP サーバに集め、それを使用して、複数の iPlanet サーバを構成することをお勧めします。このようにすると、あるサーバの Netscape Console から、同じ LDAP サーバを構成サーバ (Configuration Server) ディレクトリとして使用しているすべてのサーバが参照できます。

管理ドメイン

どの構成 LDAP サーバ上でも、サーバを複数の管理ドメイン内にグループ化して、効率を上げることができます。最初に 1 つの Directory Server をインストールして、それを構成ディレクトリサーバ (Configuration Directory Server) にすると、管理ドメインを指定できます。既存の Configuration Directory Server に管理ドメインを後で追加する場合は、管理コンソールを使用してください。

管理ドメインを使用すると、iPlanet サーバを論理的にグループ化できるため、サーバ管理タスクの分散をより容易に行えます。たとえば、企業内の 2 つの部門が、各部門用の iPlanet サーバを個別に制御したいとします。ただし、企業内の全サーバを、何らかの方法で集中制御することも必要です。管理ドメインを使用すると、こうした矛盾する目標をどちらも達成できます。

管理ドメインには、次のような特性があります。

- すべてのサーバが、所属するドメインに関係なく、同一の構成ディレクトリを共有します。
- 2 つの異なるドメイン内のサーバは、個別のユーザディレクトリを使用して認証およびユーザ管理を行えます。
- 構成ディレクトリ管理者には、所属するドメインに関係なく、インストール済みのすべての Netscape サーバへの完全なアクセス権が与えられます。
- 各管理ドメインは、管理ドメイン所有者が構成できます。管理ドメイン所有者は、ドメイン内の全サーバへの完全なアクセス権を保持しますが、ほかの管理ドメイン内のサーバへのアクセス権は保持しません。
- 管理ドメイン所有者は、個々のユーザに、ドメイン内のサーバごとのアクセス権を付与できます。

Users and Groups Directory Server の選択

Messaging Server を設定する際は、1 つの Directory Server を Configuration Directory Server として設定し、別の Directory Server をユーザおよびグループ用の Directory Server (Users and Groups Directory Server) として設定することをお勧めします。

Messaging Server のインストール時に、次の 2 つの方法で Users and Groups Directory Server を指定できます。

- Users and Groups Directory Server の新規バージョンをインストールする
- 既存の Users and Groups Directory Server を使用する

注 インストール完了後は、インストール時に指定した内容に関係なく、Netscape Console を使用して Messaging Server が使用するユーザおよびグループ用ディレクトリを変更できます。

インストールの種類

Messaging Server のインストールプログラムを使用すると、次の 4 つの方法でインストールを行うことができます。

- **Express Installation** : このインストールタイプを選択すると、「高速」インストールが実行されます。オプションの大半が自動的にデフォルト値に設定されるため、初心者のユーザはこのタイプを選択することをお勧めします。Messaging Server を評価目的で使用する場合は、Express Installation が最適です。
- **Typical Installation** : このインストールタイプは、Express Installation よりも複雑です。オプションの中には、自動的にデフォルト値に設定されるものもありますが、使用する値を選択または入力する必要もあります。中級ユーザや、カスタム構成を行う必要のないユーザは、Typical Installation を選択することをお勧めします。Messaging Server を通常どおりインストールする場合は、このインストールタイプを選択してください。
- **Custom Installation** : これは、最も複雑なインストールタイプです。すべての構成オプションを選択または入力する必要があります。熟練したユーザには、Custom Installation をお勧めします。インストール時に詳細な設定を行う場合 (SMTP および IMAP ネットワークポートにデフォルト値以外を指定する場合など) は、このインストールタイプを選択してください。
- **Silent Installation** : 複数の Messaging Server インスタンスをインストールするときに、インストール処理を自動化したい場合は、このインストールタイプを使用します。これは、企業内で複数のサーバをインストールする場合に便利な機能です。このインストールタイプの実行方法の詳細は、36 ページの「setup プログラムの実行」を参照してください。

インストールのガイドライン

この節では、Messaging Server のインストール準備を行う際のガイドラインを示します。

- **Windows NT システムアカウント**：Windows NT では、有効なものであれば、どのユーザとしてログインしても Netscape サーバを実行できます。ただし、サーバ管理に必要なすべてのアカウント権限を確実に保持するために、システムアカウント (Administrator) でログオンしてサーバを実行する方が望ましい場合があります。iPlanet Messaging 5.1 のインストールには、システム管理者の権限 (Administrator) が必要です。
- **Windows NT のホストおよびドメイン名**：iPlanet インストールユーティリティは、ホスト、ドメイン名、および DNS サーバがコントロールパネルで正確に定義されているものと見なします。ネットワーク設定に、hostname および domainname の両方が定義されていることを確認してください。
- **静的 IP アドレス**：Windows NT の場合、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) 設定で Messaging Server をインストールすることはできません。インストールする前に、静的 IP アドレスを保持している必要があります。IP アドレスを確認するには、コマンドプロンプトで ipconfig と入力します。
- **サーバルートディレクトリ**：Messaging Server、Directory Server、および Administration Server がインストールされるディレクトリは「サーバルート」と呼ばれます。これらのディレクトリによって一定のファイル位置構造 (ファイルディレクトリパス) が提供され、サーバ同士はこのファイルディレクトリパスを使用して互いを識別できるようになります。インストールプログラムでほかの場所を指定しない限り、Messaging Server は、デフォルトのサーバルートディレクトリにインストールされます。デフォルトのサーバルートディレクトリを次に示します。

```
c:\iplanet\server5
```

インストール時にサーバルートが FAT パーティションに存在する場合、NTFS パーティション上のサーバルートを選択する必要があることを示す警告メッセージが表示されます。

- **リソースの競合**：サーバ間でリソースが競合しないようにするため、Directory Server と Messaging Server をそれぞれ別のマシンにインストールすることをお勧めします。ただし、評価目的などで単独のシステムにインストールする場合は、この限りではありません。
- **MMP のインストール**：デフォルトでは MMP はインストールされません。MMP をインストールする場合は、メニューから選択してください。MMP をインストールするには、Typical Installation または Custom Installation インストールを選択します。詳細は、付録 A 「Messaging Multiplexor のインストール」を参照してください。

インストール手順

Messaging Server 製品群をインストールする基本的な手順を、次に示します。

1. 15 ページの「システム要件」を検討し、要件を満たしていることを確認します。
2. 29 ページの表 1-2 の記載に従って、実行するインストールタイプで指定する必要がある情報 (ID、パスワードなど) を記録します。
3. 既存の Directory Server を使用するか、Messaging Server に含まれる Directory Server をインストールするかを決定します。
 - a. 既存の Directory Server を使用する場合、Messaging Server をインストールする前に、既存の Directory Server に対して `ims_dssetup.pl` スクリプトを実行する必要があります。詳細は、34 ページの「`ims_dssetup` スクリプトの実行」を参照してください。
 - b. 既存の Directory Server がインストールされていない場合、または既存の Directory Server を使用しない場合は、Messaging Server に含まれる Directory Server をインストールする必要があります。Messaging Server のインストールでは、Directory Server のインスタンスが 1 つだけ作成されます。

注 Messaging Server に含まれる Directory Server をインストールする場合は、`ims_dssetup.pl` スクリプトを実行する必要はありません。このスクリプトは、Directory Server がすでに存在する場合にのみ、その Directory Server に対してインストール準備の一部として実行します。`ims_dssetup.pl` の実行方法については、34 ページの「`ims_dssetup` スクリプトの実行」を参照してください。

4. インストールファイルが製品 CD 上にあること、または iPlanet Web サイトからダウンロードされていることを確認します。
5. `setup` プログラムを実行して、インストールを開始します。`setup` プログラムの実行方法については、第 2 章「インストール手順」を参照してください。
6. インストールが成功したことを確認します。

iPlanet Messaging Server インストールチェックリスト

インストールの実行中は、表 1-2 を使用して、インストールの状態や設定値を記録してください。この情報は、ほかの Messaging 製品をインストールしたり、今後 Messaging Server をインストールする際に、特に役立ちます。

表 1-2 iPlanet Messaging Server インストールチェックリスト

パラメータ	指定するタイミング	値
製品 CD イメージの位置	インストール CD または iPlanet Web サイト上での、インストールバイナリへのパス	例 : c:\temp\msg51install インストールバイナリ : _____
Directory Manager DN	Messaging Server インストール : Directory Manager 設定	Directory Manager DN の例 (デフォルト) : cn=Directory Manager パスワード : iPlAnEt1 Directory Manager DN : _____ パスワード : _____
Directory Server 識別子、ポート、および接尾辞	Messaging Server インストール : Directory Server 設定	サーバ識別子の例 : budgie サーバポートの例 : 389 ユーザ接尾辞の例 : o=siroe.com サーバ識別子 _____ ポート _____ 接尾辞 _____
ディレクトリホストおよびドメイン名	Messaging Server インストール : Directory Server 設定	ホストおよびドメイン名の例 : budgie.siroe.com ホスト名識別子 _____
Messaging Server および Directory Server 用 Administration Server ポート	Messaging Server インストール : Administration Server ポートの選択 Web Server のインストール時にも指定	管理ポートの例 : 5000 管理ポート番号 : _____

表 1-2 iPlanet Messaging Server インストールチェックリスト (続き)

パラメータ	指定するタイミング	値
Messaging Server ポート SMTP Webmail (Messenger Express) POP3 IMAP4	Messaging Server イン ストール : Messaging Server ポート	ポートの例 (デフォルト) : POP3 : 110 IMAP4 : 143 SMTP : 25 Webmail : 80 POP3 : _____ IMAP4 : _____ SMTP : _____ Webmail : _____
Messaging Server の完全指定ホスト 名	Messaging Server イン ストール : Messaging Server のホストおよびドメイン名	完全指定の例 : budgie.siroe.com ホストの例 : budgie ドメインの例 : siroe.com Messaging Server の完全指定ホスト名 : _____
Messaging Server Service Administrator	Messaging Server イン ストール : サービス管理	ユーザの例 (デフォルト) : ServiceAdmin パスワードの例 : iPlAnEt1 Messaging Server サービスユーザ : _____ パスワード : _____
ポストマスター ユーザアカウント	Messaging Server イン ストール : ポストマスターア ドレス	ポストマスターアドレスの例 : pma@siroe.com ポストマスターアドレス : _____
Web Server ポート で稼動する Delegated Administrator for Messaging	Messaging Server イン ストール : Messaging Server Delegated Administration ホストおよびポート (Web Server インストール)	Delegated Administration ホストおよびポートの例 : ホスト名 : budgie.siroe.com ポート : 8080 Delegated Administration ホスト名 : _____ ポート番号 : _____
Web Server ポート	Delegated Administrator for Messaging 製品イン ストール (Web Server イン ストール)	Web Server 用 Administration Server ポートの例 : 8000 Web Server 用 Administration Server ポート : ポート番号 : _____
Web Server 設定 ディレクトリ	Delegated Administrator for Messaging 製品イン ストール	例 : c:\netscape\server4\https-budgie\config ディレクトリ : _____

インストール手順

この章では、`setup` プログラム、ディレクトリの `setup` プログラム、およびサイレントインストールの実行方法を説明します。さらに、一般的なインストールシナリオと、インストール後の構成手順の概要を示します。この章の内容は、第 1 章「インストールの準備」の各節を読み終えていることを前提としています。

- インストールの前に
- Messaging Server のインストールファイルの転送
- `ims_dssetup` スクリプトの実行
- `setup` プログラムの実行
- サイレントインストール
- インストールシナリオ
 - シナリオ 1: Messaging Server と Directory Server を同じマシンにインストールする
 - シナリオ 2: 既存の Configuration Directory Server と Users and Groups Directory Server を使用して Messaging Server をインストールする
 - シナリオ 3: 既存の Users and Groups Directory Server と新規の Configuration Directory Server を使用して Messaging Server をインストールする
- インストール後の設定

インストールの前に

この時点で、`setup` プログラムを実行して **Messaging Server** のインストールを開始する準備はほぼ完了しています。作業を進める前に、次の質問に「はい」と答えられるようにしてください。

1. 15 ページの「システム要件」を読み、必要条件が満たされていることを確認しましたか。
2. 20 ページの「製品階層および相互の関連性」を読み、インストールするコンポーネントとインストール場所を決めましたか。
3. 13 ページの「インストールの種類」を読み、実行するインストールタイプを決め、必要な情報をすべて収集しましたか。
4. 既存の **Directory Server** を使用するか、**Messaging Server** に付属する **Directory Server** をインストールするかを決めましたか。既存の **Directory Server** を使用する場合は、29 ページの「**iPlanet Messaging Server** インストールチェックリスト」で詳細情報を確認する必要があります。
5. 29 ページの表 1-2 のインストールチェックリストに、インストールと構成に関する値を記録する用意はできていますか。

Messaging Server のインストールファイルの転送

製品のアーカイブファイルを転送して解凍するには、以下の手順に従います。

Web からダウンロードする場合

圧縮されたインストールプログラムファイルを **iPlanet** の Web サイトから転送して解凍するには、**Messaging Server** のアーカイブファイルがある場所を探します。次のサイトから **Messaging Server** の圧縮アーカイブをダウンロードして解凍してください。

<http://www.iplanet.com/downloads>

1. `m51DIU.zip` アーカイブを解凍します。
2. **Messaging Server** を使用するマシン上にディレクトリ (`c:\tmp\msg51` など) を作成し、そのディレクトリにアーカイブファイルをコピーします。

CD からコピーする場合

1. **Messaging Server** アーカイブのある場所を探します。

製品 CD を使用して、次の操作を行います。

インストールマシンの CD-ROM ドライブに CD を挿入し、\ntx86 というアーカイブを探します。次に、インストールするサブディレクトリを探します。

- ES - iPlanet Web Server
- iDA - iPlanet Delegated Administrator for Messaging
- iMS - iPlanet Messaging Server

注 既存の Directory Server がない場合は、次の手順を飛ばして先に進んでください。Netscape Messaging System からユーザとグループを移行する場合は、Windows NT 用の Messaging Server に付属する新しい Configuration Directory Server をインストールすることをお勧めします。詳細は、『iPlanet Messaging Server 5.0 移行ガイド』を参照してください。

2. CD の \ntx86\iMS\msg で、ims_dssetup というアーカイブを探し、Directory Server がインストールされている場所にそのアーカイブをコピーします。さらに、dssetup.zip にある config というサポート対象のディレクトリを、既存の Directory Server マシンにコピーする必要があります。

注 既存の Directory Server が 2 つ (ユーザおよびグループ用と構成データ用に 1 つずつ) ある場合、両方の Directory Server で ims_dssetup.pl を実行する必要があります。

ims_dssetup スクリプトの実行

この節では、ims_dssetup.pl スクリプトを実行して、既存の Directory Server を Messaging Server 用に構成する手順を説明します。既存の Directory Server がない場合は、この節を読む必要はありません。ims_dssetup.pl スクリプトは、Web からアーカイブファイルをダウンロードしたディレクトリ内の msg ディレクトリにあります。また、CD-ROM 上でも、msg ディレクトリにあります。

1. 次のコマンドを使用して、ims_dssetup スクリプトを実行します。

```
perl5 ims_dssetup.pl
```

注

ims_dssetup.pl ユーティリティは、Perl スクリプトです。Messaging Server をインストールすると、既存の Directory Server の c:\server-root\install ディレクトリに、Perl (バージョン 5.005) 実行可能プログラムが配置されます (server-root はサーバルートを示す)。このバージョンの Perl スクリプトを使用することをお勧めします。

2. 「y」と入力して作業を続けます。

```
Welcome to the iMS Directory Server preparation tool.
```

```
This tool will help you setup a Netscape Directory Server and  
make it ready to use for installing iPlanet Messaging Server.
```

```
Do you want to continue [y]:
```

3. 既存の Directory Server がある Directory Server ルートを指定します。

```
Please enter the full path to the directory where Netscape  
Directory Server was installed.
```

```
Directory server root [c:\iplanet\server5] :
```

4. Messaging Server のインストールに使用する Directory Server インスタンスを選択します。

```
Please select a directory server instance from the following  
list:
```

```
[1]  slapd-budgie
```

```
Which instance do you want [1]:
```

5. DC ツリーのベース接尾辞を指定するか、Return キーを押してデフォルト値を使用します。DC ツリーでは、ルートは o=internet に設定する決まりになっています。

```
Please enter the base suffix for DC Tree [o=internet]:
```

6. ユーザおよびグループデータを設定するベース接尾辞を指定します。デフォルト値を使用する場合は、Return キーを押します。

Please enter the base suffix under which the Users/Groups data should be setup [o=siroe.com] :

7. 「yes」と入力するか、Return キーを押して、スキーマファイルを更新します。
Do you want to update the schema files [yes]:
8. 「yes」と入力するか、Return キーを押して、新しいインデックスを構成します。
Do you want to configure new indexes [yes]:
9. スキーマディレクトリを指定します。これは、ims_dssetup.pl スクリプトが置かれているディレクトリの config サブディレクトリです。
Please enter the schema directory
[c:\iplanet\server5\msg\config]:

この時点で、設定内容の要約が表示されます。以下に例を示します。

Here is a summary of the settings that you chose:

```
Server Root           : c:\iplanet\server5
Server Instance      : slapd-budgie
Update Schema        : yes
DC Root              : o=internet
User/Group Root     : o=siroe.com
Add New Indexes     : yes
Schema Directory    : c:\iplanet\server5\msg\config
```

Answer yes or press Return to continue, or answer no to start over. Do you want to continue [y]: At this point, the configuration of the specified Directory Server begins.

setup プログラムの実行

setup.exe プログラムは、iPlanet Messaging Server のファイルが置かれているインストールディレクトリ (c:\temp\msg5install など) にあります。

setup コマンドを実行するには、次のように入力します。

setup [*options*]

options に指定できる setup コマンドのパラメータを、表 2-1 に示します。

表 2-1 setup コマンドのオプションパラメータ

パラメータ	説明
-s	サイレントインストールモード。このパラメータは、-f <i>file</i> パラメータと一緒に使用する必要があります
-f <i>file</i>	ファイル (<i>file</i>) をサイレントインストールスクリプトとして指定する。このパラメータは、-s パラメータと一緒に使用する必要があります
-k	インストールキャッシュを保持する

setup を実行するには、次の手順に従います。

1. 管理者としてログインします。

インストールプログラムを実行するには、スーパーユーザの権限を持っている (管理者としてログインする) 必要があります。

2. バイナリディレクトリから setup コマンドを実行します。必要であれば、前述のパラメータを使用してください。

サイレントインストール

インストールプログラムでは、サイレントインストールキャッシュファイルを作成できます。このファイルを使用すると、その後に行う別の **Messaging Server** インスタンスのインストールが効率化されます。最初のインストールで `-k` オプションを使用すると、サイレントインストールキャッシュファイルが作成されます。インストールプロンプトで指定したすべての値が、そのファイルに記録されます。

サイレントインストールを実行すると、`setup` プログラムは、サイレントインストールキャッシュファイルを読み取ります。`setup` プログラムは、その後の **Messaging Server** のインストールでは同じ質問を繰り返さずに、このキャッシュファイルの値を使用します。したがって、新しいインストールでキャッシュファイルを使用すると、ユーザは一切質問を受けることはありません。その代わりに、新しいインストールパラメータとしてキャッシュファイルの値が自動的に適用されます。

サイレントインストールのキャッシュファイルは、`c:\server-root\setup` ディレクトリに保存されます。たとえば、**Messaging Server** を `c:\iplanet\server5` にインストールした場合、そのインストールのキャッシュファイルは次のディレクトリに保存されます。

```
c:\iplanet\server5\setup\install.inf
```

キャッシュファイルを使用して別の **Messaging Server** インスタンスをすばやくインストールするには、次の手順に従います。

1. 使用するサイレントインストールキャッシュファイルを、インストールディレクトリにコピーします。
2. 必要であれば、サイレントインストールキャッシュファイルを見直して編集します。

キャッシュファイルのパラメータおよび指定の一部を変更する必要があることがあります。たとえば、このインストールのホスト名が、キャッシュファイルに記録されているホスト名と異なる場合などです。キャッシュファイルに記録されたパラメータが、今度のインストールに自動的に適用されることを忘れないでください。

3. `-s -f file` オプションを指定して `setup` を実行します。この場合、*file* は、サイレントインストールキャッシュファイルのフルパスとファイル名を表します(その他の `setup` オプションは 36 ページの「`setup` プログラムの実行」を参照)。たとえば、次のように入力します。

```
setup -s -f c:\home\foo\install.inf
```

注 キャッシュファイルを使用する場合、サイレントインストールによって新しいキャッシュファイルは作成されません。

同じサーバ構成を多数設定する場合は、各マシンに同じ構成ファイルとサーバのインストールパッケージを置きます。各マシンに配置した `setup` プログラムを実行すると、インストールの実行時に、その構成ファイルから必要な情報が抽出されます。

インストールシナリオ

この節では、一般的な3つのインストールシナリオについて説明します。

注 これらのシナリオの手順は、**Custom Installation** を想定したものです。**Express Installation** または **Typical Installation** を実行する場合は、ここに挙げた質問のいくつかが表示されないことがあります。

- シナリオ 1: **Messaging Server** と **Directory Server** を同じマシンにインストールする。

Messaging Server と **Directory Server** を同じサーバにインストールします。**Messaging Server** 製品を評価目的で使用する場合は、通常はこのインストールシナリオに従います。

- シナリオ 2: 既存の **Configuration Directory Server** と **Users and Groups Directory Server** を使用して **Messaging Server** をインストールする。

既存の **Configuration Directory Server** と **Users and Groups Directory Server** を使用して **Messaging Server** をインストールします。

- シナリオ 3: 既存の **Users and Groups Directory Server** と新規の **Configuration Directory Server** を使用して **Messaging Server** をインストールする。

Users and Groups Directory Server のみ既存のものを使用して、**Messaging Server** をインストールします。**Netscape Messaging Server** から **iPlanet Messaging Server** にユーザとグループを移行する場合は、このインストールシナリオに従います。詳細は、『**iPlanet Messaging Server 5.0 移行ガイド**』を参照してください。

注 既存の **Directory Server** を使用して **Messaging Server** をインストールする場合は、使用する既存の **Directory Server** に対して **ims_dssetup** スクリプトを実行し、**Messaging Server** のインストールに対応できるように準備する必要があります。詳細は、29 ページの「**iPlanet Messaging Server インストールチェックリスト**」および 34 ページの「**ims_dssetup スクリプトの実行**」を参照してください。

質問によっては、用意された答えの中から選択する場合と、ユーザ独自の答えを入力する場合があります。各質問の詳細は、第3章「インストールに関する質問」を参照してください。

ヒント 各質問に対する回答を 29 ページの表 1-2 に記録することを強くお勧めします。別の製品のインストールでこの回答が必要になることがあるためです。たとえば、iPlanet Delegated Administrator for Messaging では、Messaging Server のインストール時に行った回答のいくつかを必要とします。詳細は、23 ページの「iPlanet Delegated Administrator for Messaging のインストールに必要な情報」を参照してください。

シナリオ 1: Messaging Server と Directory Server を同じマシンにインストールする

Messaging Server と Directory Server を同じマシンにインストールする場合は、次のインストール手順に従います。

1. インストールファイルをダウンロードしたディレクトリに移動し、`setup.exe` プログラムをクリックします。
2. `setup` プログラムを実行してインストールを開始します。詳細は、36 ページの「`setup` プログラムの実行」を参照してください。
3. 第3章「インストールに関する質問」の説明に従って、以下の各質問に答えます。
 - 質問 1: 開始画面
 - 質問 2: 使用許諾契約
 - 質問 3: サーバまたはコンソールのインストールの選択 ([iPlanet Servers] を選択)
 - 質問 4: インストールタイプ ([Custom Installation] を選択)
 - 質問 5: インストール場所 (サーバルート)
 - 質問 6: iPlanet サーバ製品のコンポーネント (表示されている全コンポーネントを選択)
 - 質問 7: Configuration Directory Server の LDAP URL ([This instance will be the configuration directory server] を選択)
 - 質問 8: Users and Groups Directory Server の LDAP URL ([Store data in this directory server] を選択)
 - 質問 9: Directory Server の設定
 - 質問 10: Netscape Configuration Server と Netscape Directory Server の管理者
 - 質問 14: 管理ドメイン

- 質問 15 : Directory Manager のバインド DN とパスワード
- 質問 16 : Directory Server の複製
- 質問 17 : サンプルデータを持つ Directory Server の作成
- 質問 18 : スキーマ検査の無効化 ([Disable Schema Checking] のチェックマークを外す)
- 質問 19 : Administration Server の IP アドレス
- 質問 20 : Administration Server のポート
- 質問 21 : Messaging Server の一意の識別子
- 質問 22 : Messaging Server のホスト名とドメイン名
- 質問 23 : Messaging Server のデフォルトドメインおよび組織
- 質問 24 : Directory Manager の識別名とパスワード
- 質問 25 : iPlanet Delegated Administrator for Messaging Web Server のホスト名とポート
- 質問 26 : Messaging Server のファイアウォール
- 質問 27 : プライマリメッセージストアディレクトリ
- 質問 28 : POP3、IMAP、SMTP、および Messenger Express (Web メール) の TCP/IP ポート番号
- 質問 29 : サービス管理者 (Delegated Administrator のトップレベル管理者とも呼ばれる) のログイン ID とパスワード
- 質問 30 : Messaging Server のホスト名とドメイン名
- 質問 31 : 構成の要約

シナリオ 2: 既存の Configuration Directory Server と Users and Groups Directory Server を使用して Messaging Server をインストールする

既存の Configuration Directory Server と Users and Groups Directory Server を使用して Messaging Server をインストールする場合は、次のインストール手順に従います。

1. インストールファイルをダウンロードしたディレクトリに移動し、`setup.exe` プログラムをクリックします。
2. `setup` プログラムを実行してインストールを開始します。詳細は、36 ページの「`setup` プログラムの実行」を参照してください。
3. 第 3 章「インストールに関する質問」の説明に従って、以下の各質問に答えます。
 - 質問 1: 開始画面
 - 質問 2: 使用許諾契約
 - 質問 3: サーバまたはコンソールのインストールの選択 ([iPlanet Servers] を選択)
 - 質問 4: インストールタイプ ([Custom Installation] を選択)
 - 質問 5: インストール場所 (サーバルート)
 - 質問 6: iPlanet サーバ製品のコンポーネント (2 番目の [Netscape Directory Suite] を除くすべてのコンポーネントを選択)
 - 質問 19: Administration Server の IP アドレス
 - 質問 20: Administration Server のポート (Directory Server の管理サーバポート番号と重複しない管理サーバポートを選択。iPlanet Delegated Administrator for Messaging のインストールで必要になるため、このポート番号を 29 ページの表 1-2 に記録します)
 - 質問 11: 構成管理者
 - 質問 12: サーバの構成ディレクトリ (Configuration Directory)
 - 質問 13: サーバの Configuration Directory の管理ドメイン
 - 質問 21: Messaging Server の一意の識別子
 - 質問 22: Messaging Server のホスト名とドメイン名
 - 質問 23: Messaging Server のデフォルトドメインおよび組織
 - 質問 24: Directory Manager の識別名とパスワード
 - 質問 25: iPlanet Delegated Administrator for Messaging Web Server のホスト名とポート

- 質問 26 : Messaging Server のファイアウォール
- 質問 27 : プライマリメッセージストアディレクトリ
- 質問 28 : POP3、IMAP、SMTP、および Messenger Express (Web メール) の TCP/IP ポート番号
- 質問 29 : サービス管理者 (Delegated Administrator のトップレベル管理者とも呼ばれる) のログイン ID とパスワード
- 質問 30 : Messaging Server のホスト名とドメイン名
- 質問 31 : 構成の要約

シナリオ 3: 既存の Users and Groups Directory Server と新規の Configuration Directory Server を使用して Messaging Server をインストールする

Users and Groups Directory Server のみ既存のものを使用して Messaging Server をインストールする場合は、次のインストール手順に従います。

1. インストールファイルをダウンロードしたディレクトリに移動し、`setup.exe` プログラムをクリックします。
2. `setup` プログラムを実行してインストールを開始します。詳細は、36 ページの「`setup` プログラムの実行」を参照してください。
3. 第 3 章「インストールに関する質問」の説明に従って、以下の各質問に答えます。
 - 質問 1: 開始画面
 - 質問 2: 使用許諾契約
 - 質問 3: サーバまたはコンソールのインストールの選択 ([iPlanet Servers] を選択)
 - 質問 4: インストールタイプ ([Custom Installation] を選択)
 - 質問 5: インストール場所 (サーバルート)
 - 質問 6: iPlanet サーバ製品のコンポーネント (すべてのコンポーネントを選択)
 - 質問 7: Configuration Directory Server の LDAP URL ([This instance will be the configuration directory server] を選択)
 - 質問 8: Users and Groups Directory Server の LDAP URL ([Store data in an existing directory server] を選択)
 - 質問 9: Directory Server の設定 (Configuration Directory Server の構成サーバの設定を使用)
 - 質問 10: Netscape Configuration Server と Netscape Directory Server の管理者
 - 質問 14: 管理ドメイン
 - 質問 15: Directory Manager のバインド DN とパスワード
 - 質問 16: Directory Server の複製 ([Do not configure as a Supplier] および [Do not configure as a Consumer] を選択)
 - 質問 17: サンプルデータを持つ Directory Server の作成 ([Install Sample Organizational Sample] のチェックマークを外し、[Populate with sample database] を選択)
 - 質問 18: スキーマ検査の無効化 ([Disable Schema Checking] のチェックマークを外す)

- 質問 19 : Administration Server の IP アドレス
- 質問 20 : Administration Server のポート (Directory Server の管理サーバポート番号と重複しない管理サーバポートを選択。iPlanet Delegated Administrator for Messaging のインストールで必要になるので、このポート番号を 29 ページの表 1-2 に記録します)
- 質問 21 : Messaging Server の一意の識別子
- 質問 22 : Messaging Server のホスト名とドメイン名
- 質問 23 : Messaging Server のデフォルトドメインおよび組織
- 質問 24 : Directory Manager の識別名とパスワード
- 質問 25 : iPlanet Delegated Administrator for Messaging Web Server のホスト名とポート
- 質問 26 : Messaging Server のファイアウォール
- 質問 27 : プライマリメッセージストアディレクトリ
- 質問 28 : POP3、IMAP、SMTP、および Messenger Express (Web メール) の TCP/IP ポート番号
- 質問 29 : サービス管理者 (Delegated Administrator のトップレベル管理者とも呼ばれる) のログイン ID とパスワード
- 質問 30 : Messaging Server のホスト名とドメイン名
- 質問 31 : 構成の要約

インストール後の設定

この時点で、システムへの Messaging Server のインストールは完了しています。ただし、複数の Messaging Server インスタンスをインストールする場合は、インストール後の追加設定を行う必要があります。

共通の User and Group Directory を使用する Messaging Server

共通の Users and Groups Directory Server を使用する複数の Messaging Server インスタンスをインストールする場合、インストールプログラムでは、Messaging End User Administrator グループに msg-admin-xxx アカウントが追加されません。

Messaging Server インスタンスの Users and Groups Directory には必ず、LDAP アカウントが作成されます。それぞれのインスタンスは、アカウント資格を使用して、LDAP ディレクトリからユーザおよびグループのデータにアクセスします。

このアカウントは、インストール時に作成され、必要なディレクトリデータの読み取りアクセスが許可されています。この読み取りアクセス権は、アクセス制御項目 (ACI) を介して付与されます。ACI は、Messaging End User Administrator グループのメンバーにアクセス権を付与します。このグループは、デフォルトドメインの構造サブツリー上の「ou=Groups」にあります。Messaging End User Administrator グループの DN は、「cn=Messaging End User Administrators Group, ou=Groups, o=siroe.com, o=ISP」です。その内容は次のとおりです。

- デフォルトのドメインは、siroe.com である。
- ユーザおよびグループの LDAP ディレクトリのベース接尾辞は、「o=ISP」である。
- デフォルトの構造のサブツリー (「dc=siroe, dc=com, o=internet」が DN 参照を持つサブツリー) は、「o=siroe.com, o=ISP」である。

ディレクトリの ACI は、上記のグループのメンバーにディレクトリデータへのアクセスを許可しますが、最初の Messaging Server のサーバアカウントのみが、このグループのメンバーとして追加されます。インストーラは、ほかのサーバのアカウントを作成し、その資格を、local.ugldapbasedn と local.ugldabindcred の属性ペアに保存します。ただし、インストーラは、このアカウントを Messaging End User Administrator Group のメンバーとして追加しないので、Messaging Server は、Users and Groups Directory Server から必要なデータにアクセスできません。

LDAP ディレクトリを正しく構成するには、Messaging Server アカウントの DN を、Messaging End User Administrator Group のメンバーとして追加する必要があります。その手順を次に示します。

1. Messaging End User Administrator Group の DN (例:「dn: cn=Messaging End User Administrators Group, o=siroe.com, o=ISP」) を決めます。
2. Messaging Server アカウントの DN を決めます。この DN は、Messaging Server 構成の local.ugldapbinddn 属性に保存されます。DN (例:「uid=msg-admin-2, ou=People, o=siroe.com, o=ISP」) を取り出す場合は、`$INSTANCEROOT/getconf local.ugldapbinddn` コマンドを使用します。
3. 上記の DN を、Messaging End User Administrator Group の `uniquemember` 属性の値として追加します。以下は、この例で使用しているグループにアカウント DN を追加する LDIF ファイルの例です。

```
dn: cn=Messaging End User Administrators Group, ou=Groups,
    o=siroe.com, o=ISP
changetype: modify
add: uniquemember
uniquemember: uid=msg-admin-2, ou=People, o=siroe.com, o=ISP
```
4. `ldapmodify` の引数として LDIF ファイルを使用して、Messaging Server に必要なアクセス権限を Messaging End User Administrator Group に付与します。

2 番目の Messaging Server にサービス管理者グループを追加する

サービス管理者グループがすでに存在する場合、2 番目の Messaging Server を追加すると、そのサーバのサービス管理者がサービス管理者グループに追加されません。この問題を解決するには、2 番目のサービス管理者ユーザをサービス管理者グループに手動で追加します。

インストールに関する質問

この章では、インストール時にユーザに表示されるすべての質問について説明します。この章で解説する質問の中には、選択したインストールオプション (Typical Installation や Custom Installation など) により、表示されないものもあります。

ここでは、第 2 章「インストール手順」の各節を理解していることを前提にしています。シナリオからは、回答する必要がある質問および回答の順序を判断できます。

この章の内容：

- 各インストールタイプで表示されるダイアログボックス
- 共通の質問
- コンポーネントに関する質問
- Directory Server に関する質問
- Administration Server に関する質問
- Messaging Server に関する質問

各インストールタイプで表示されるダイアログボックス

次の表に、表示される可能性のあるインストールダイアログを、インストールタイプごとに表示します。詳細は、13 ページの「インストールの種類」を参照してください。

表 3-1 インストールダイアログボックス

ダイアログボックス	Express	Typical	Custom
Welcome	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Software License Agreement	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Select Server or Console Installation	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
[iPlanet Servers] ラジオボタンがデフォルトで選択されています。			
Type of Installation	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
[Typical] ラジオボタンがデフォルトで選択されています。			
Location of Installation	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
デフォルトのインストールディレクトリは、 c:\iPlanet\Server5 です。			
Components to Install	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
デフォルトでは、次のコンポーネントが選択されています。			
<ul style="list-style-type: none"> • Netscape Server Family Core Components • Netscape Directory Suite • Administration Services • iPlanet Messaging Server 5.1 			
Directory Server 4.1 - 1		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
デフォルトでは、iPlanet Directory Suite は iPlanet Messaging Server と同じマシンにインストールされます。Directory Server インスタンスは、iPlanet Messaging Server の「Configuration Server」として動作します。			
Directory Server 4.1 - 2		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Configuration Server は、デフォルトではユーザおよびグループ情報などのデータを格納します。			

表 3-1 インストールダイアログボックス (続く)

ダイアログボックス	Express	Typical	Custom
Directory Server 4.1 Server Settings このダイアログボックスでは、次の詳細設定を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • Server Identifier - デフォルトのサーバ識別子は、インストールを実行するマシン名です。 • Server Port - デフォルトの通信用サーバポートは 389 です。 • User and Group Suffix - デフォルトのサーバ用接尾辞は、<code>o=domainname</code> です。<code>domainname</code> は、マシンの DNS ドメイン名です。これは、『iPlanet Messaging Server 5.0 プロビジョニングガイド』の <code>o=isp</code> に対応します。 		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Directory Server 4.1 Netscape configuration directory server administrator このダイアログボックスには、 Configuration Server 管理者のユーザ名およびパスワードを入力します。管理者のデフォルトのユーザ名は「admin」です。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Configuration Administrator 既存の Directory Server を使用して Messaging Server をインストールする場合、既存の構成管理者の ID およびパスワードの指定が求められます。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Server Configuration Directory 既存の Directory Server を使用して Messaging Server をインストールする場合、既存の Configuration Directory Server のホスト名およびポートの指定が求められます。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Administration Domain in Server Configuration Directory 既存の Directory Server を使用して Messaging Server をインストールする場合、既存の Configuration Server Directory の管理ドメイン (DNS ドメイン名) を指定します。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Directory Server 4.1 Administration Domain Configuration Server の管理ドメインは、 <code>domainname</code> です。 <code>domainname</code> には、マシンの DNS ドメイン名が当てはまります。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

表 3-1 インストールダイアログボックス (続く)

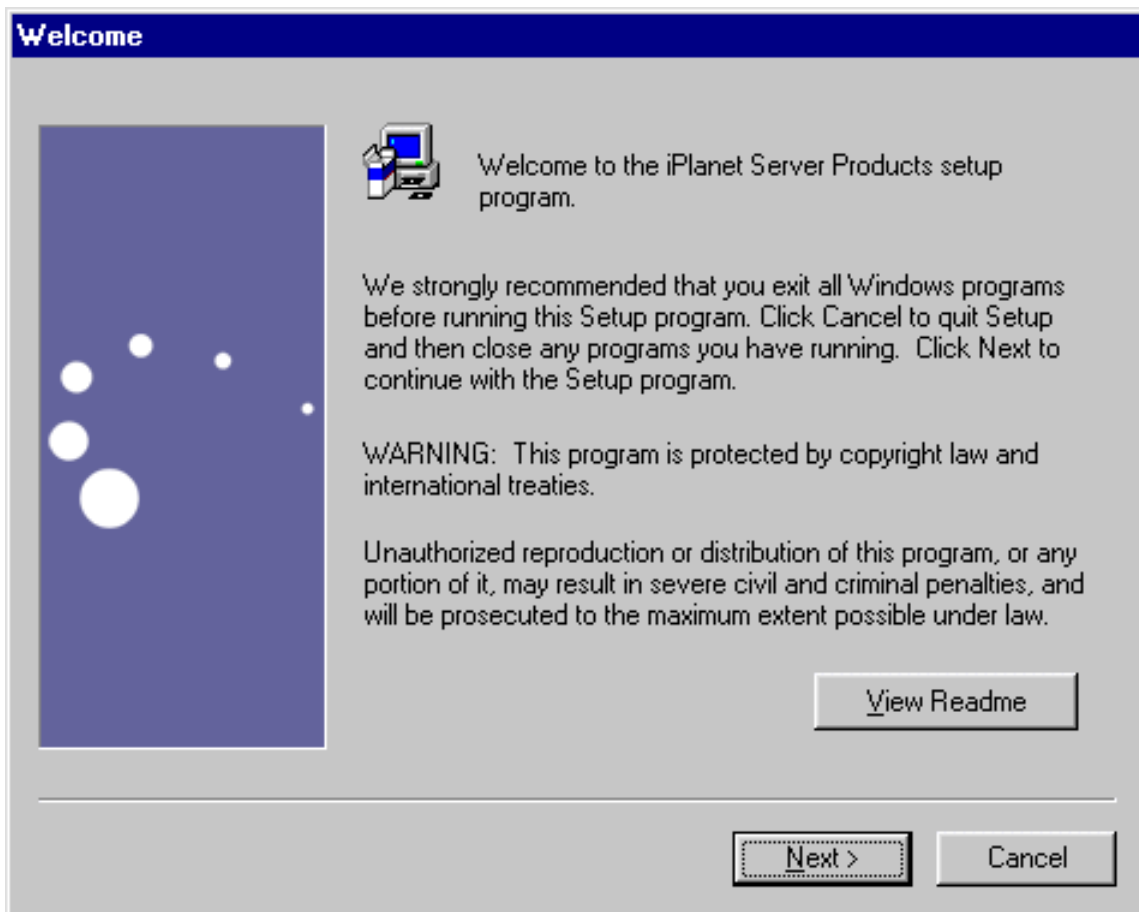
ダイアログボックス	Express	Typical	Custom
Directory Server 4.1 Directory Manager Settings	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Directory Manager は、特定の Directory Server 操作に必要なアクセス権を保持する管理ユーザを識別します。			
Directory Manager の詳細設定を入力します。			
<ul style="list-style-type: none"> Directory Manager の識別名 (DN) は、<code>cn=Directory Manager</code> の形式で指定します。 Directory Manager のパスワード 			
Directory Server 4.1 Configure Server for Replication			
Directory Server 4.1 Populate Database			<input type="radio"/>
Directory Server 4.1 Disable Schema Checking			<input type="radio"/>
Administration Server IP Address			<input type="radio"/>
Administration Server Port Selection		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Administration Server の通信ポートを入力します。			
Messaging Server Instance Name			<input type="radio"/>
Messaging Server Host and Domain Names		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Messaging Server Default Domain and Organization	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Messaging Server Directory Manager Credentials	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Messaging Server Delegated Administration Host and Port	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Messaging Server Firewall		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Messaging Server Store Directory			<input type="radio"/>
Messaging Server Ports			<input type="radio"/>
Messaging Server Service Administrator	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Messaging Server Postmaster Address	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Configuration Summary	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

共通の質問

この節で解説する質問は、実行するインストールタイプに関係なく表示されます。

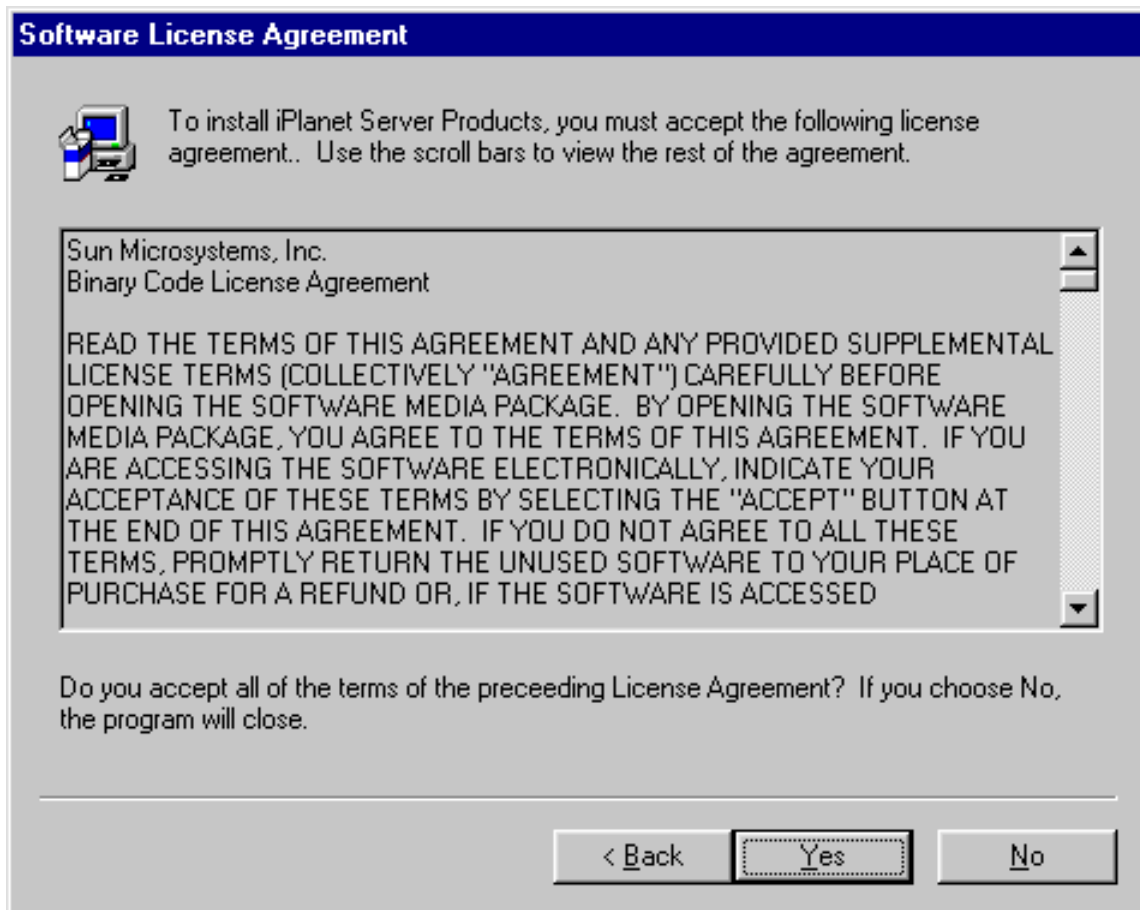
1. 開始画面

最初に表示される画面です。画面に表示される情報を確認してから、[Next] をクリックしてインストールを続行します。



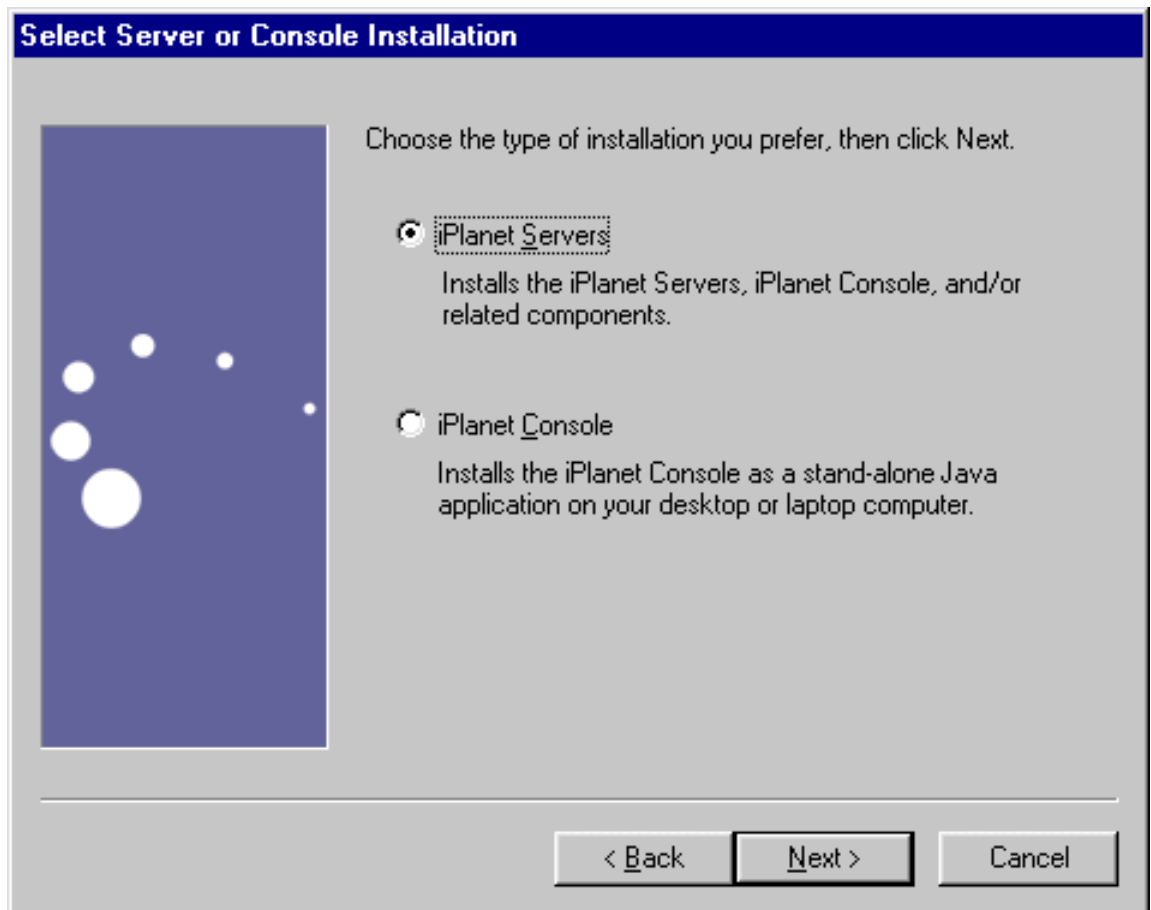
2. 使用許諾契約

インストール処理の一部として、インストールソフトウェアのダウンロード先ディレクトリにある LICENSE.txt ファイルに記載された使用許諾契約の条項に同意するかどうかを尋ねられます。使用許諾契約を確認後、[Yes] をクリックしてインストールを続行します。



3. サーバまたはコンソールのインストールの選択

iPlanet サーバ (Netscape Console および関連するコンポーネントを含む) をインストールするか、Netscape Console (iPlanet Console と呼ばれる) のみをインストールするかを選択できます。デフォルトでは、[iPlanet Servers] が選択されています。リモートマシンにインストールされたサーバを管理する場合には、[Netscape Console] (Messaging Server なし) を選択できます。たとえば、Windows NT マシンを使用しており、別のマシン (UNIX または Windows NT) にある iPlanet Messaging Server を管理する場合は、Netscape Console をインストールするだけで十分です。以降の説明は、[iPlanet Servers] を選択したことを前提にしています。

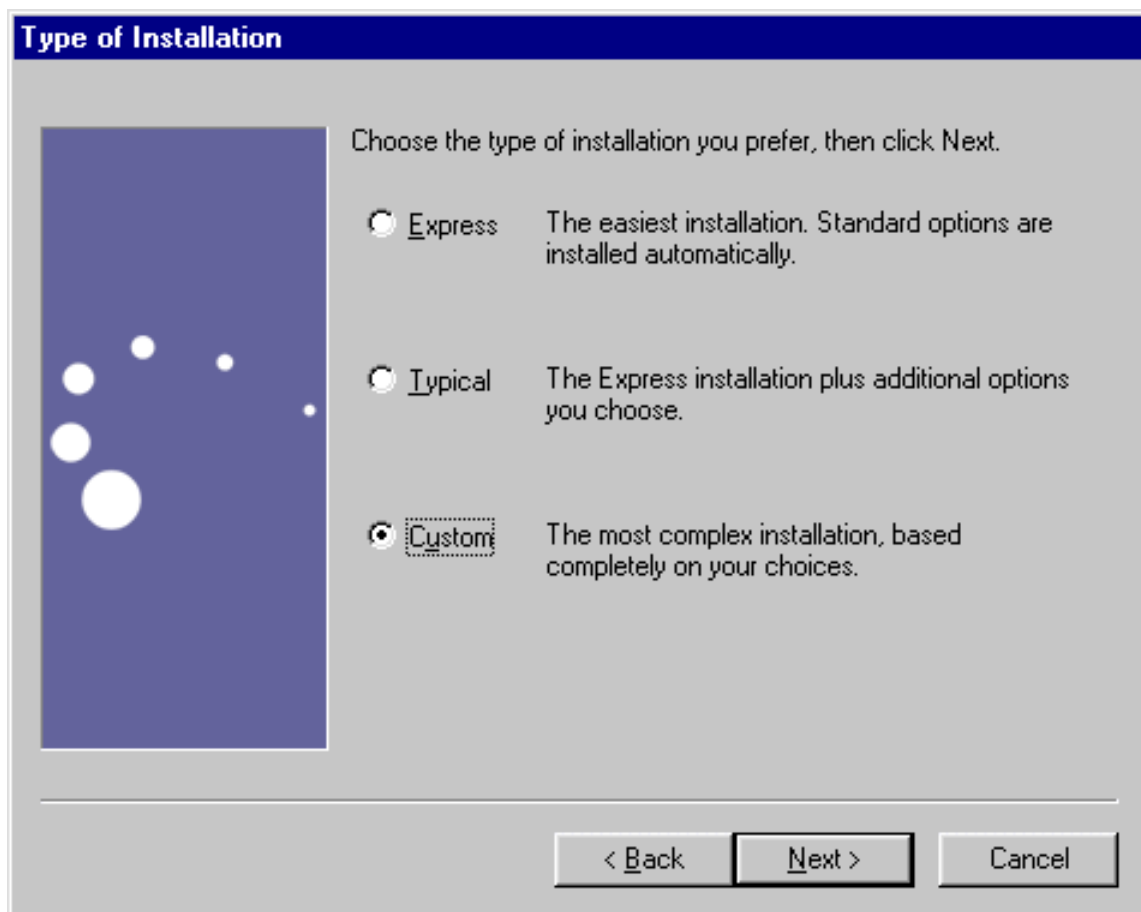


4. インストールタイプ

ここでは、実行するインストールタイプを選択します。どのインストールタイプを選択した場合でも、同じソフトウェアがインストールされます。各インストールタイプで異なるのは、インストール処理中にユーザが選択するオプションの数です。詳細は、13 ページの「インストールの種類」を参照してください。インストールタイプは次の3つのレベルから選択できます。

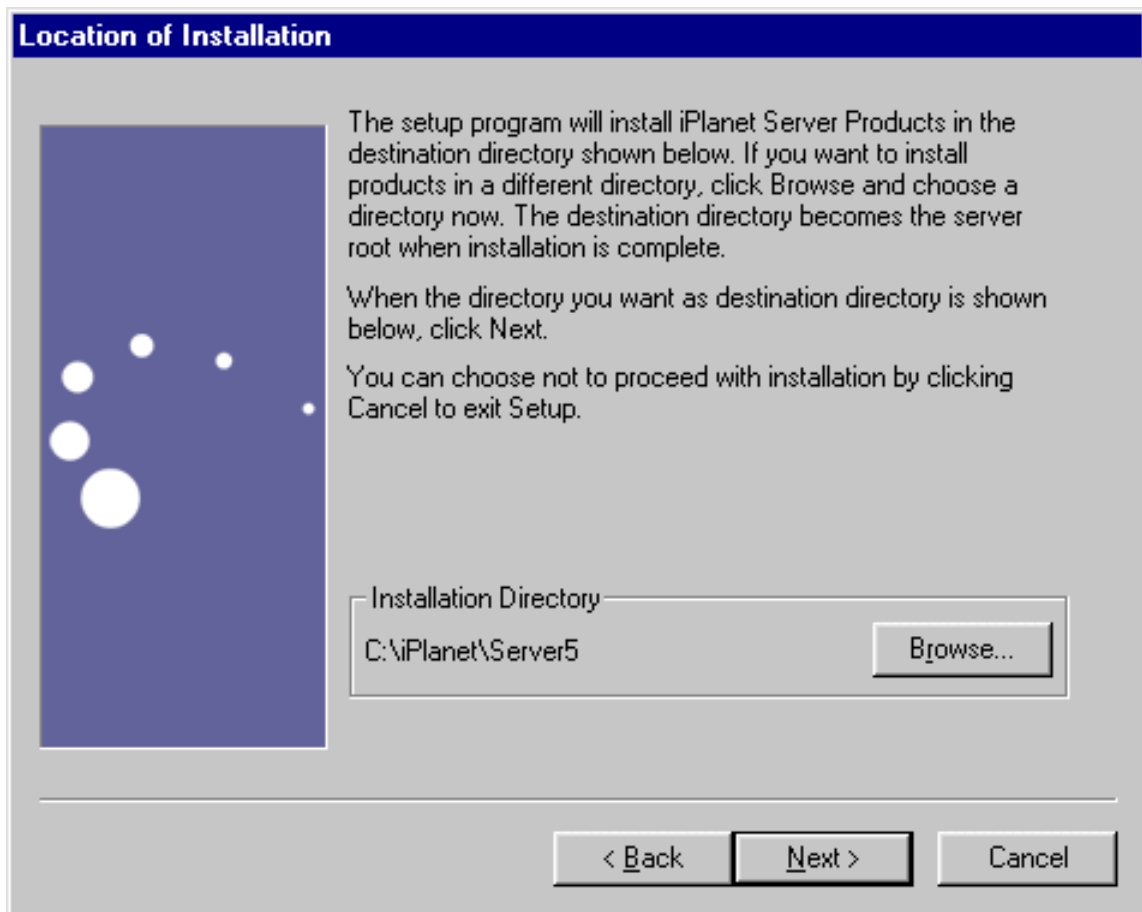
- **Express Installation** : このレベルは最も簡単に実行できますが、設定可能なオプションは最も少なくなります。
- **Typical Installation** : このレベルは、ユーザが設定するオプションと自動的に設定されるオプションとの釣り合いが取れています。デフォルトでは、このレベルが選択されています。
- **Custom Installation** : このレベルは熟練したユーザ用で、最も多くのオプションを設定できます。

インストールタイプの選択後に、選択内容に応じて、インストールおよび構成情報を入力します。各インストールタイプで表示される質問については、50 ページの表 3-1 を参照してください。



5. インストール場所 (サーバルート)

[Browse] をクリックして、インストール場所を指定します。インストールディレクトリをまだ作成していない場合は、この段階で作成できます。デフォルト設定を使用する場合は、[Next] をクリックします。このマニュアルでは、以後、インストール位置 (サーバルート) は *server-root* として示します。ディレクトリサーバがすでに存在する場合、このインストールでは別のサーバルートを指定する必要があります。



コンポーネントに関する質問

この節では、インストールする Messaging Server 製品群に関係した質問について解説します。

6. iPlanet サーバ製品のコンポーネント

インストールする Messaging Server Suite の製品およびコンポーネントを指定します。各製品およびコンポーネントの詳細は、17 ページの「インストールコンポーネント」を参照してください。

次の選択肢があります。

Netscape Server Family Core Components : 共有サーバライブラリ、iPlanet Core Java クラス、および Java Runtime Environment を指します。iPlanet Messaging Server をインストールするには、これらのライブラリが必要です。

Netscape Directory Suite : Directory Server 4.13 サーバおよび添付されているコンポーネントが含まれています。詳細は、『Directory Server 4.1x インストールガイド』を参照してください。

注 iPlanet Messaging Server 5.1 を実行するには、Directory Server が必要です。iPlanet Messaging Server 5.1 インストールプログラムには、Netscape Directory Server 4.13 が含まれています。Directory Server をまだインストールしていない場合、Messaging Server のインストール中に Netscape Directory Server 4.13 をインストールする必要があります。

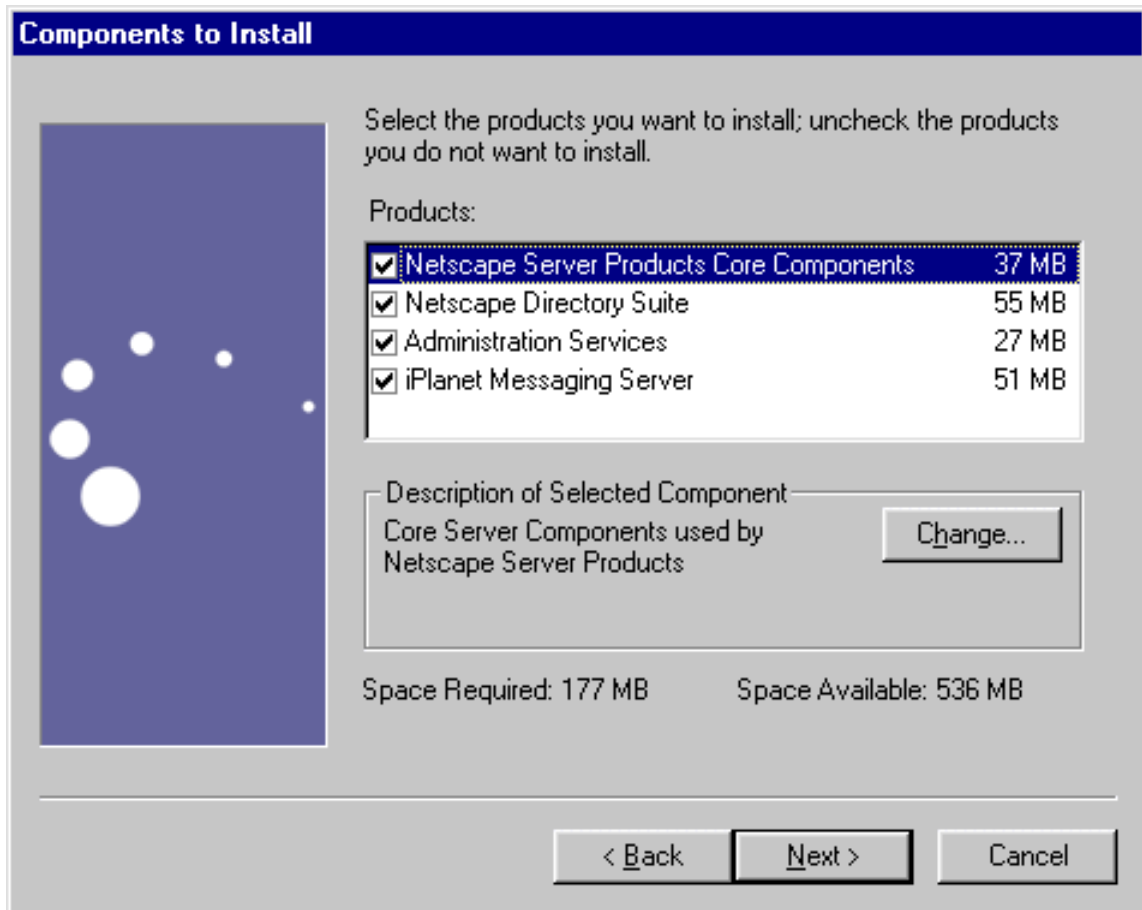
Administration Services : Administration Server および Netscape Console が含まれています。iPlanet Messaging Server を使用するには、Administration Services のインストールが必要です。

iPlanet Messaging Suite : iPlanet Messaging Server、iPlanet Internet Message Transport Agent、およびオプションパッケージとして iPlanet Messaging Multiplexor が含まれています。Multiplexor の詳細は、付録 A 「Messaging Multiplexor のインストール」を参照してください。

デフォルトの製品および対応するデフォルトサブコンポーネントをインストールするには、**[Next]** をクリックします。インストールしないコンポーネントがある場合、そのコンポーネントのチェックマークを外します。たとえば、既存の Directory Server を使用している場合、Netscape Directory Suite オプションのチェックマークを外します。

インストールするサブコンポーネントを変更する場合、製品名をクリックしてから **[Change]** をクリックします。そうすると、すべてのサブコンポーネントのデフォルトインストール設定を表示および変更できるようになります。たとえば、iPlanet Messaging Server オプションのサブコンポーネントである iPlanet Messaging

Multiplexor は選択されていません。iPlanet Messaging Server のインストール時に iPlanet Messaging Multiplexor をインストールする場合、このオプションを選択します。各コンポーネントおよびサブコンポーネントの詳細および依存関係については、20 ページの表 0-1 を参照してください。

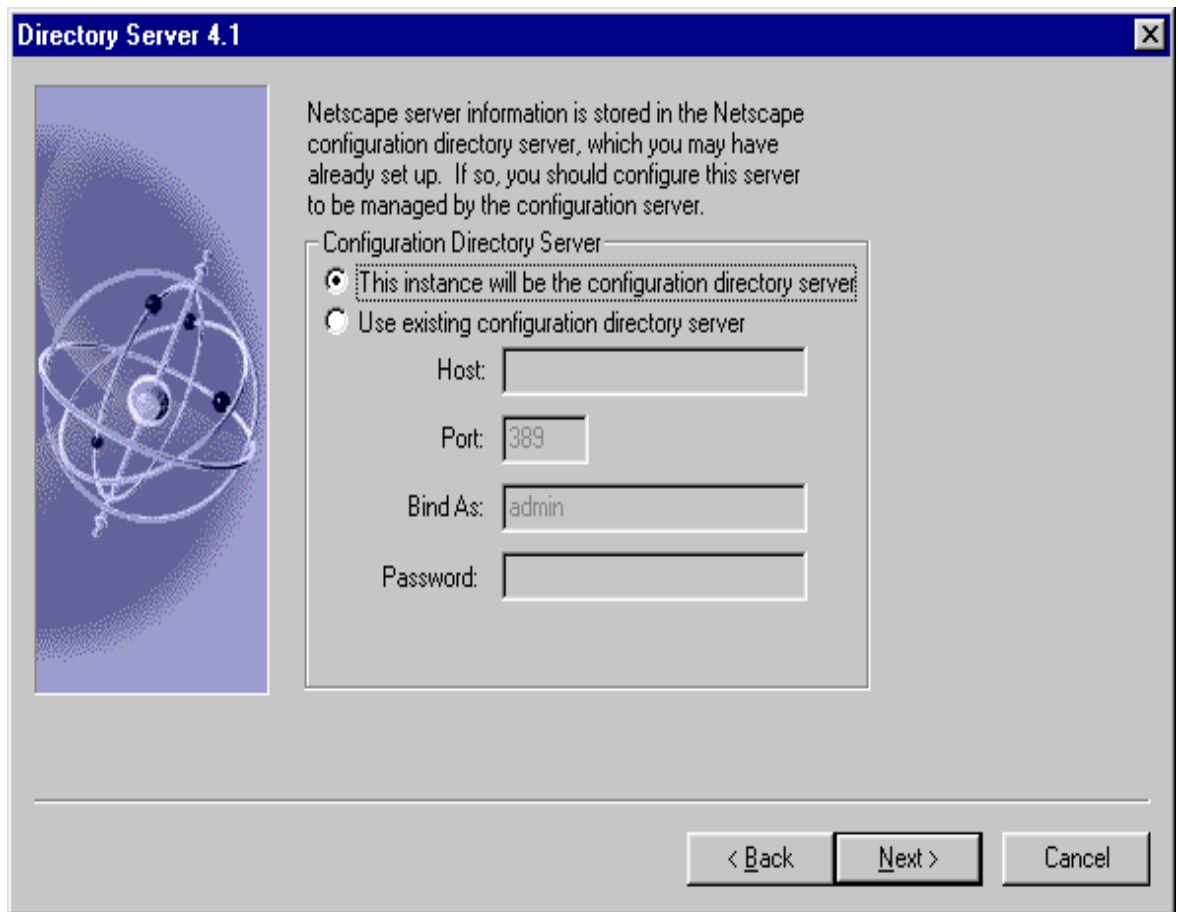


Directory Server に関する質問

この節では、ディレクトリサーバに関係した質問について解説します。表示される質問および指定する内容は、選択したインストールシナリオにより異なります。

7. Configuration Directory Server の LDAP URL

デフォルトのラジオボタンは、Configuration Directory Server インスタンスが新規インストールされるように設定されています。Messaging Server インストールの一部として Configuration Directory Server を新規インストールする場合は、このオプションを使用します。



既存の Configuration Directory Server を使用する場合には、既存の Configuration Server が動作中であること、および iPlanet Messaging Server 5.1 インストールに備えるため `ims_dssetup` スクリプトを実行済みであることを確認してください。

8. Users and Groups Directory Server の LDAP URL

デフォルトのラジオボタンは、Users and Groups Directory Server インスタンスが新規インストールされるように設定されています。Messaging Server インストールの一部として Users and Groups Directory Server を新規インストールする場合は、このオプションを使用します。デフォルトでは、ユーザおよびグループ情報は、Configuration Directory Server に保存されます。このデフォルト設定は後で変更できます。

ただし、既存の Users and Groups Directory Server を使用する場合には、既存の Users and Groups Directory Server の LDAP URL を指定する必要があります。Directory Server が使用するポートを判別するには、Directory Server の `server-root/slapd-serverID/config` ディレクトリ内の `slapd.conf` ファイルを確認します (`serverID` はサーバ ID を示す)。次にホストおよびポートの指定の例を示します。

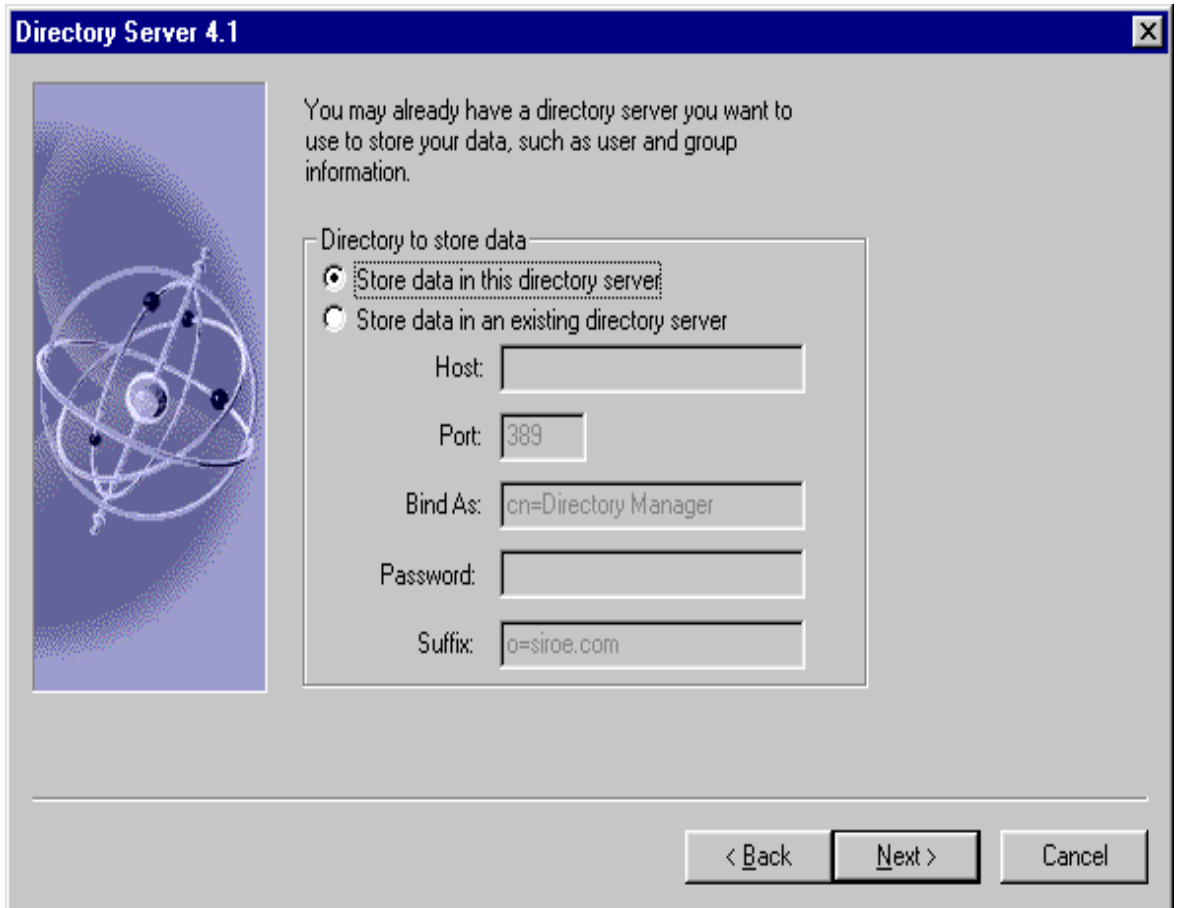
```
Host: budgie.siroe.com
Port: 389
```

[Bind As] オプションには、使用する Users and Groups Directory Manager DN を入力します。[Password] には、対応する Directory Manager DN のパスワードを入力します。ユーザおよびグループ接尾辞は、ディレクトリツリーのルートです。すべてのホストドメイン (デフォルトドメインに対応するホストドメインを含む) のユーザおよびグループは、このディレクトリツリー内で定義されます。適切な書式の組織 DN を、`o=suffix` の形式で指定する必要があります (`suffix` は接尾辞を示す)。

次にバインド DN、パスワード、接尾辞の指定の例を示します。

```
Bind As: cn=Directory Manager
Password: *****
Suffix: o=siroe.com
```

警告 Directory Server がすでにインストールされている場合、その Directory Server のルート接尾辞を iPlanet Messaging Server および iPlanet Delegated Administrator for Messaging に対して使用する必要があります。

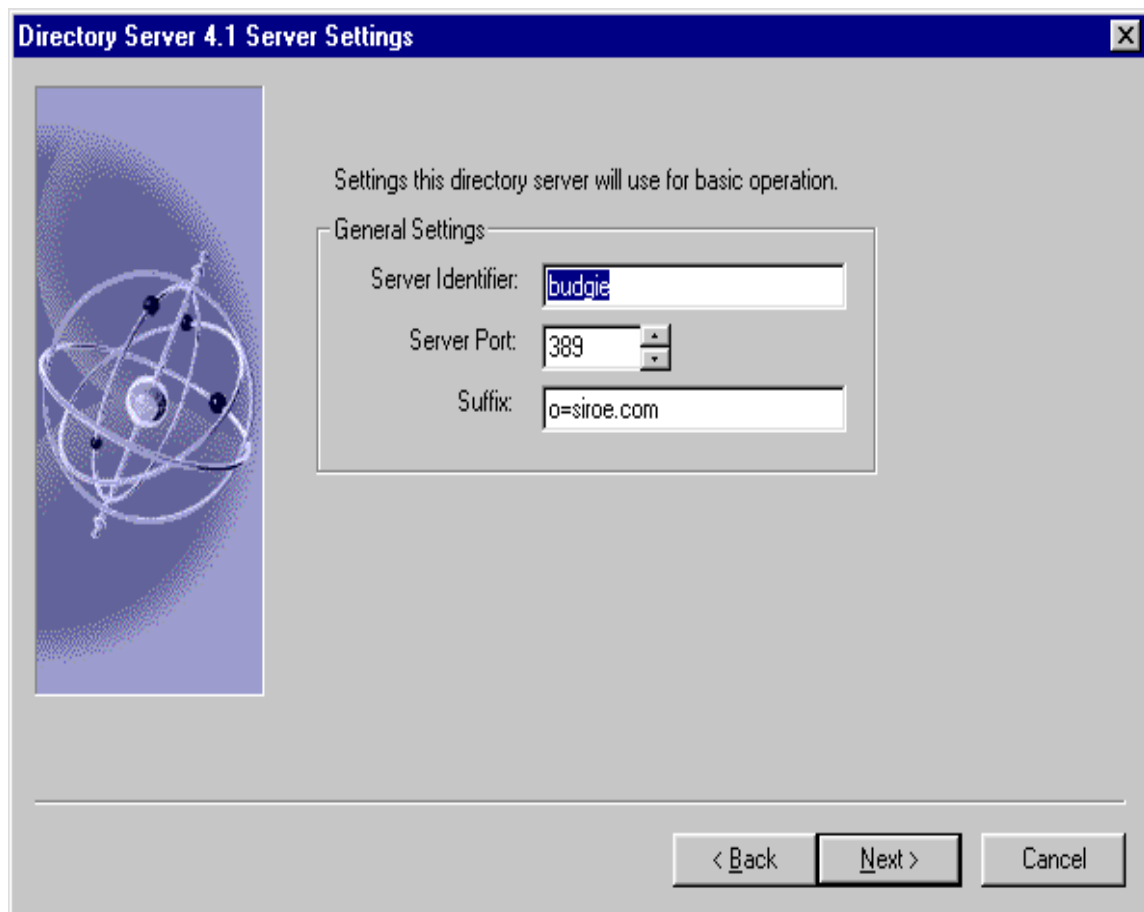


既存の Users and Group Directory Server を使用する場合には、既存の Users and Group Server が動作中であること、および iPlanet Messaging Server 5.1 インストールに備えて `ims_dssetup` スクリプトを実行済みであることを確認してください。

9. Directory Server の設定

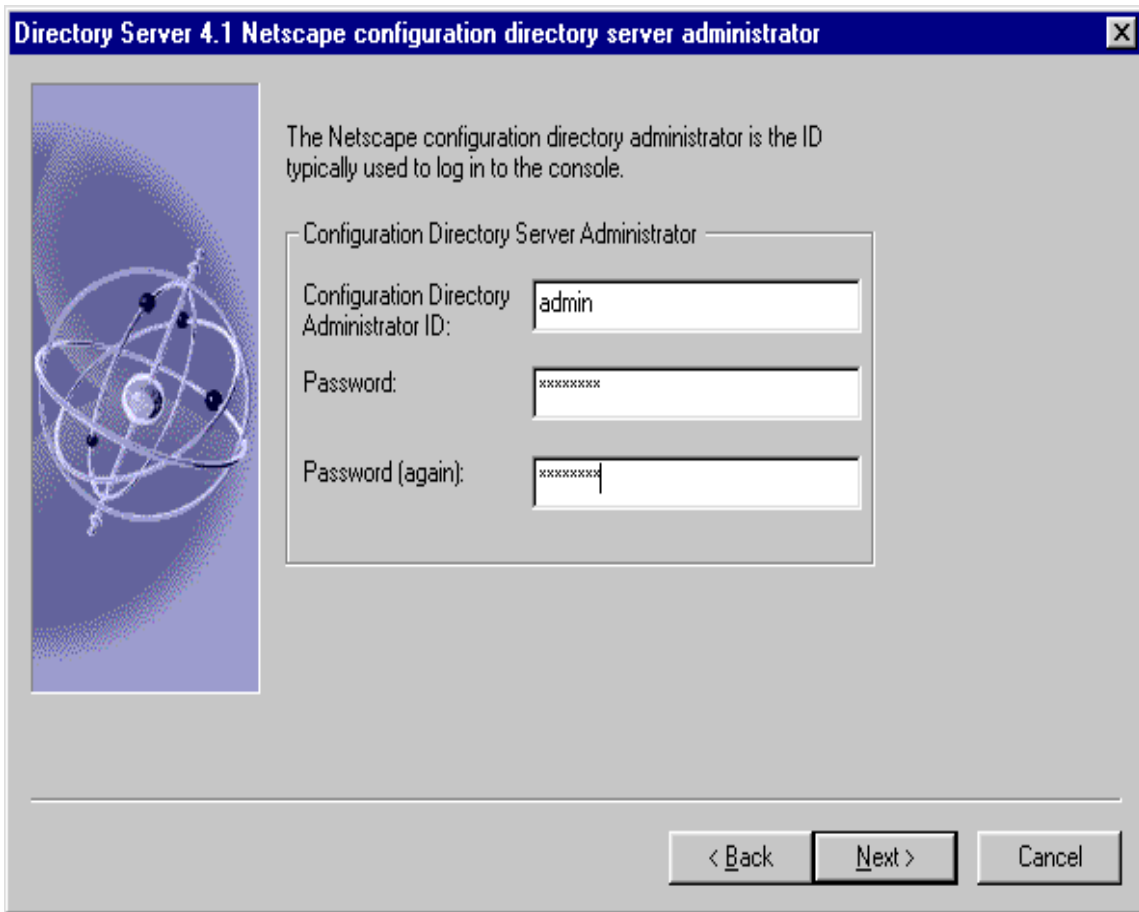
新規の Directory Server を使用して iPlanet Messaging Server をインストールする場合は、次の情報を入力する必要があります。

- **Server Identifier** (サーバ識別子) - デフォルトのサーバ識別子は、インストールを実行するマシン名です。
- **Server Port** (サーバのポート) - デフォルトの LDAP 通信用標準サーバポートは 389 です。
- **Suffix** (接尾辞) - サーバのデフォルト接尾辞は、`o=domainname` です。
`domainname` は、マシンの DNS ドメイン名を示します。



10. Netscape Configuration Server と Netscape Directory Server の管理者

ここでは、Netscape Console を使用してサーバ設定を変更するときに必要なユーザ ID (デフォルトは admin) およびパスワードを指定します。Configuration Server 管理者は、Configuration Directory Server インスタンスを使用するすべてのサーバに対する管理権限を保持しています。ただし、Configuration Directory Server 自体に対する管理権限は保持していません。サーバ管理は、指定したホストからサーバにアクセスするユーザだけに制限されます。Netscape Console を開くと、Directory Server 管理者のユーザ ID およびパスワードの入力が求められます。



Directory Server 4.1 Netscape configuration directory server administrator

The Netscape configuration directory administrator is the ID typically used to log in to the console.

Configuration Directory Server Administrator

Configuration Directory Administrator ID: admin

Password: *****

Password (again): *****

< Back Next > Cancel

11. 構成管理者

この質問は、既存の Configuration Server および Users and Groups Directory Server を使用して Messaging Server をインストールする場合に表示されます。Configuration Administrator の ID およびパスワードを指定するよう求められます。この画面は、65 ページの Step 10 の画面に類似しています。

12. サーバの構成ディレクトリ

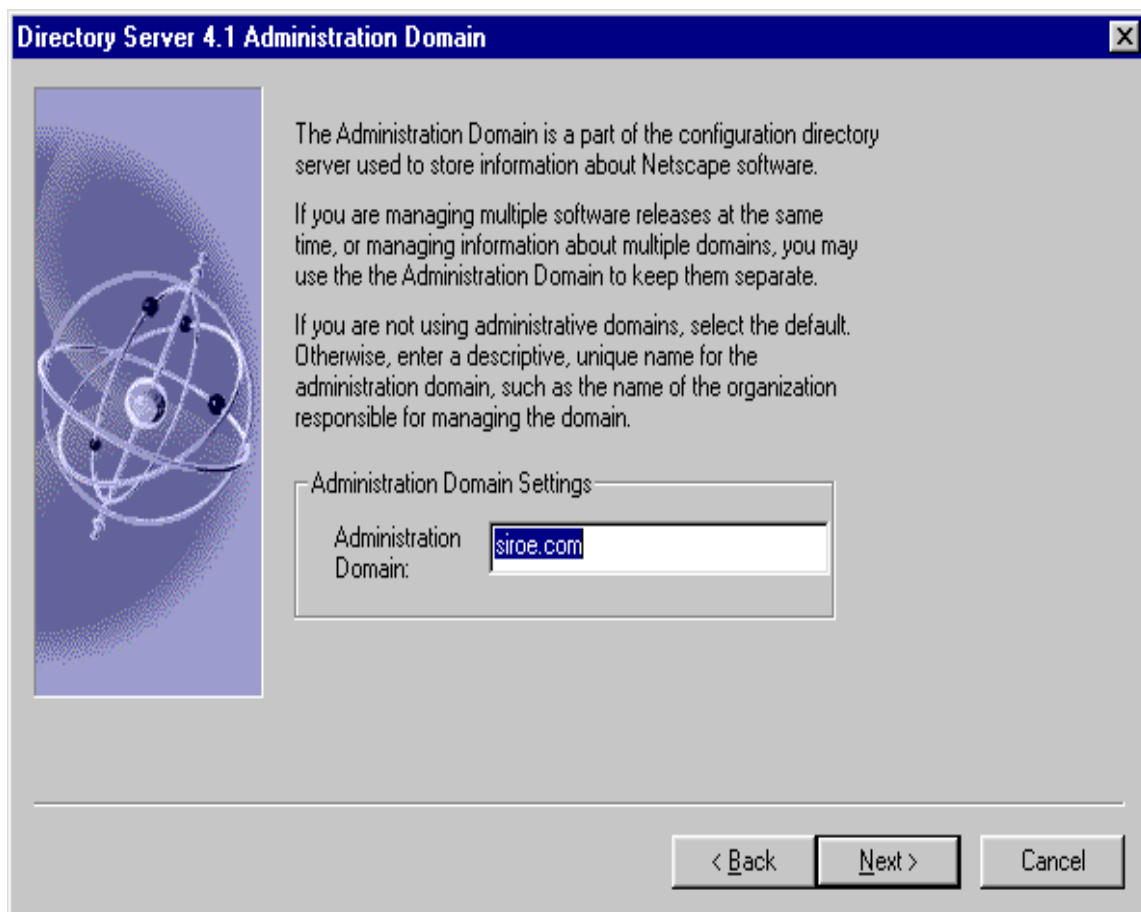
この質問は、既存の Configuration Server および Users and Groups Directory Server を使用して Messaging Server をインストールする場合に表示されます。Configuration Directory Server のホスト名およびポートを指定するよう求められます。

13. サーバの Configuration Directory の管理ドメイン

この質問は、既存の Configuration Server および Users and Groups Directory Server を使用して Messaging Server をインストールする場合に表示されます。サーバ構成情報を保管する Configuration Server Directory の管理ドメインを指定するよう求められます。ここでは、組織のドメインを入力します (例: siroe.com)。この画面は、66 ページの Step 14 の画面に類似しています。

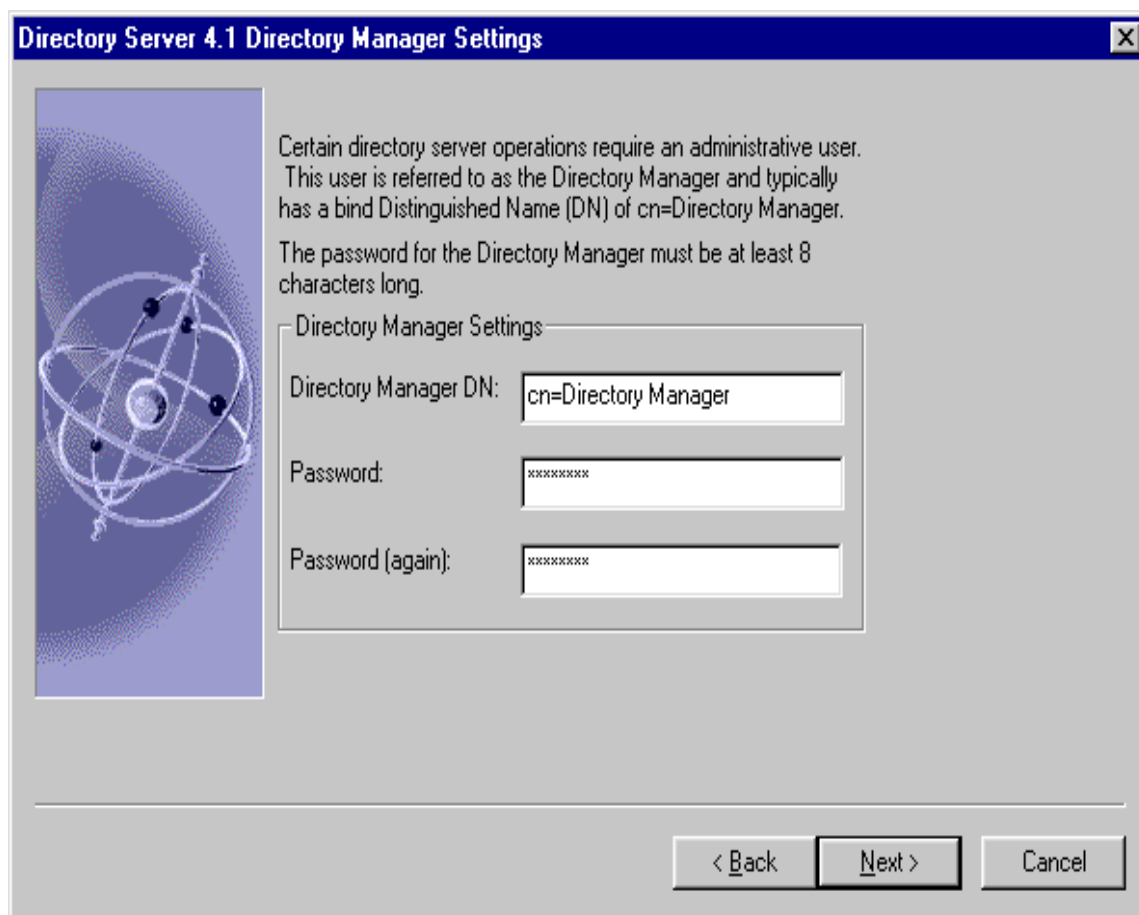
14. 管理ドメイン

サーバ構成情報を保管する Configuration Server Directory の管理ドメインを指定します。ここでは、組織のドメインを入力します (例: siroe.com)。Configuration Directory Server に指定したものと同一ドメイン名を使用する必要があります。この質問は、既存の Configuration Directory Server が存在せず、Messaging Server に含まれる Configuration Directory Server をインストールする場合に表示されます。



15. Directory Manager のバインド DN とパスワード

Directory Manager は、Directory Server スキーマを変更する (Users and Groups Directory にアクセスする) 権限を保持しています。このユーザには、Directory Server および Directory Server を使用するすべての iPlanet サーバに対する全面的な管理者権限が付与されています。Directory Manager は、Directory Server 内の全エントリへの完全な管理アクセス権限を保持しています。デフォルトであり、かつ推奨される DN は、cn=Directory Manager です。



Directory Server 4.1 Directory Manager Settings

Certain directory server operations require an administrative user. This user is referred to as the Directory Manager and typically has a bind Distinguished Name (DN) of cn=Directory Manager.

The password for the Directory Manager must be at least 8 characters long.

Directory Manager Settings

Directory Manager DN:

Password:

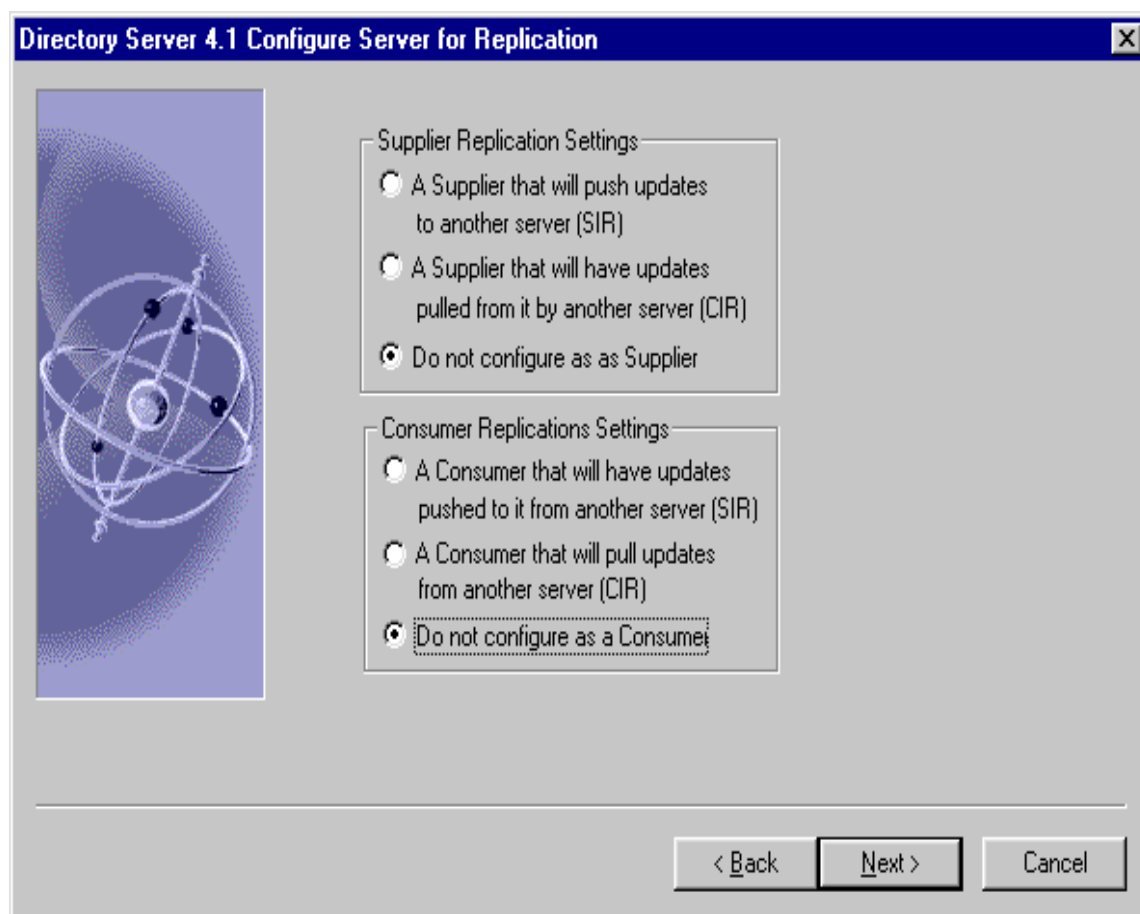
Password (again):

< Back Next > Cancel

16. Directory Server の複製

複製は、ディレクトリサーバのすべてまたは一部の機能を別のディレクトリサーバにも持たせる場合に使用します。これは、1つのサーバがダウンしてもディレクトリデータが常にオンラインかつ最新の状態であるように、フェイルセーフ機構として使用されます。この機能は、中央のメインリポジトリからリモートのディレクトリサーバへディレクトリデータを分散する場合にも有用です。

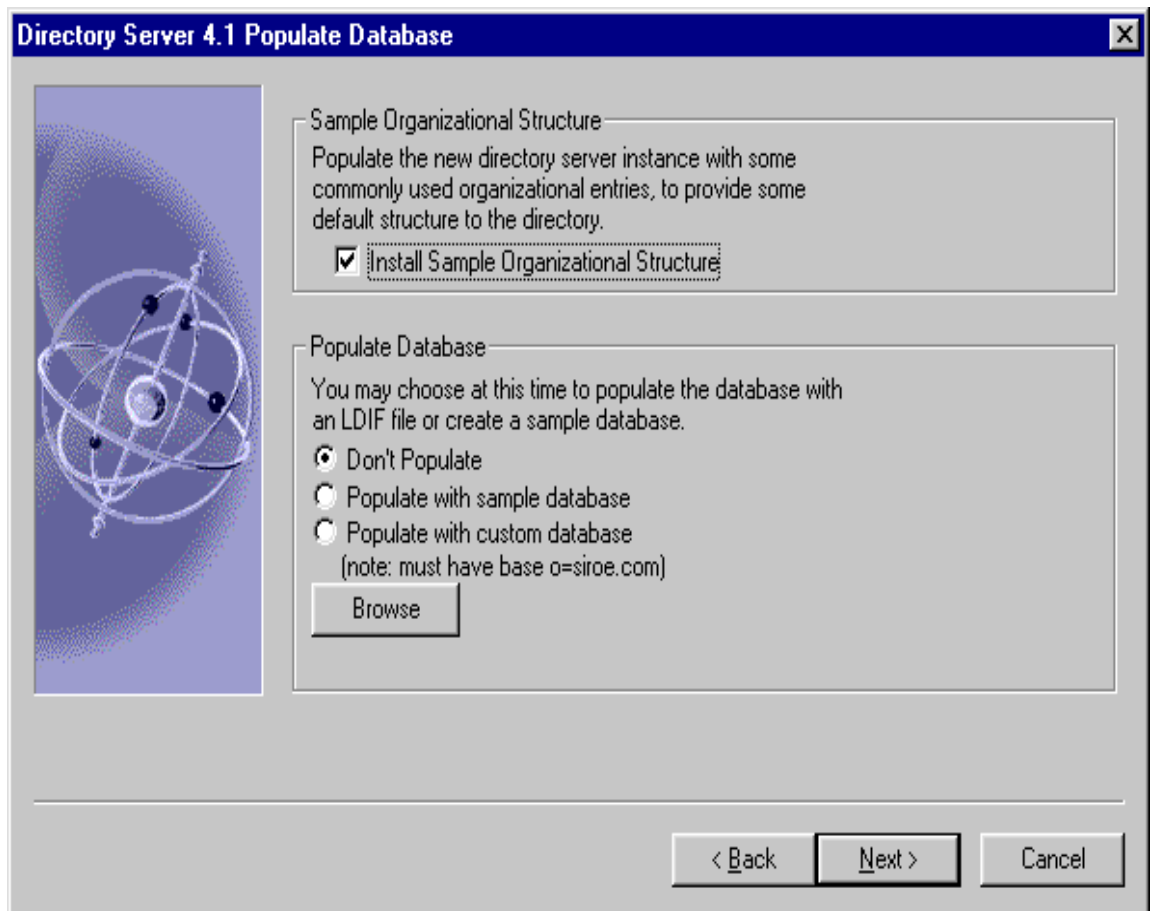
注 ここで Directory Server を Supplier (サプライヤ) および Consumer (コンシューマ) として構成しなかった場合は、後で構成できます。詳細は、Directory Server のマニュアルを参照してください。



17. サンプルデータを持つ Directory Server の作成

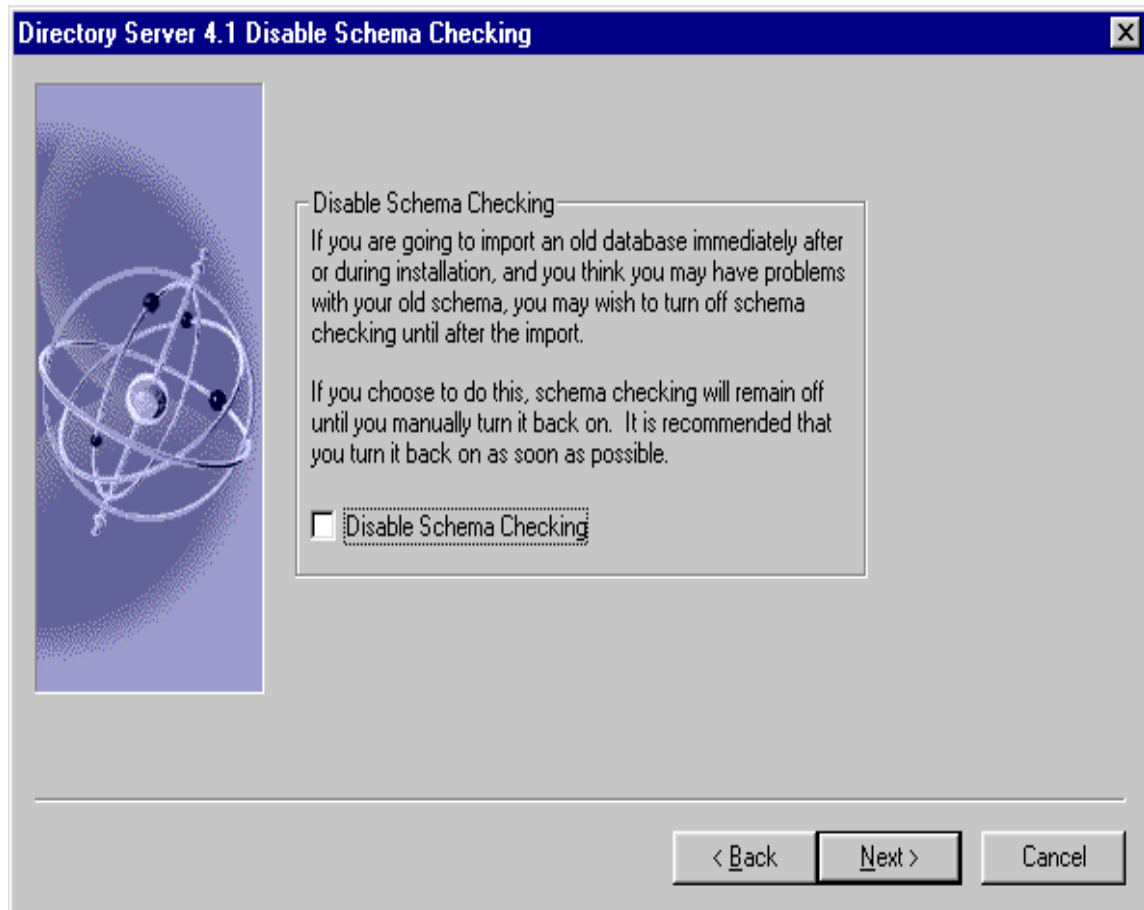
新規ディレクトリサーバインスタンスにサンプルのエントリを追加する場合、**[Install Sample Organizational Structure]** チェックボックスにチェックマークを付けます。サンプルは別の接尾辞内にインストールされるため、通常の Directory Server 操作には影響を及ぼしません。

LDIF ファイルを使ってデータベースを生成するか、サンプルデータベースを作成してデータベースを生成するかを選択できます。既存の LDIF ファイルからエントリをインポートする場合は、**[Populate with custom database button]** を選択してから **[Browse]** をクリックし、適切な LDIF ファイルを検索および選択します。



18. スキーマ検査の無効化

インストール中またはインストール後に、旧バージョンの Directory Server データベースをインポートする場合、インポートが完了するまでスキーマ検査を無効にできます。スキーマ検査は、いったん無効にすると、手動で有効に設定するまで無効のままになります。スキーマ検査は、できる限り早く有効に戻すことをお勧めします。

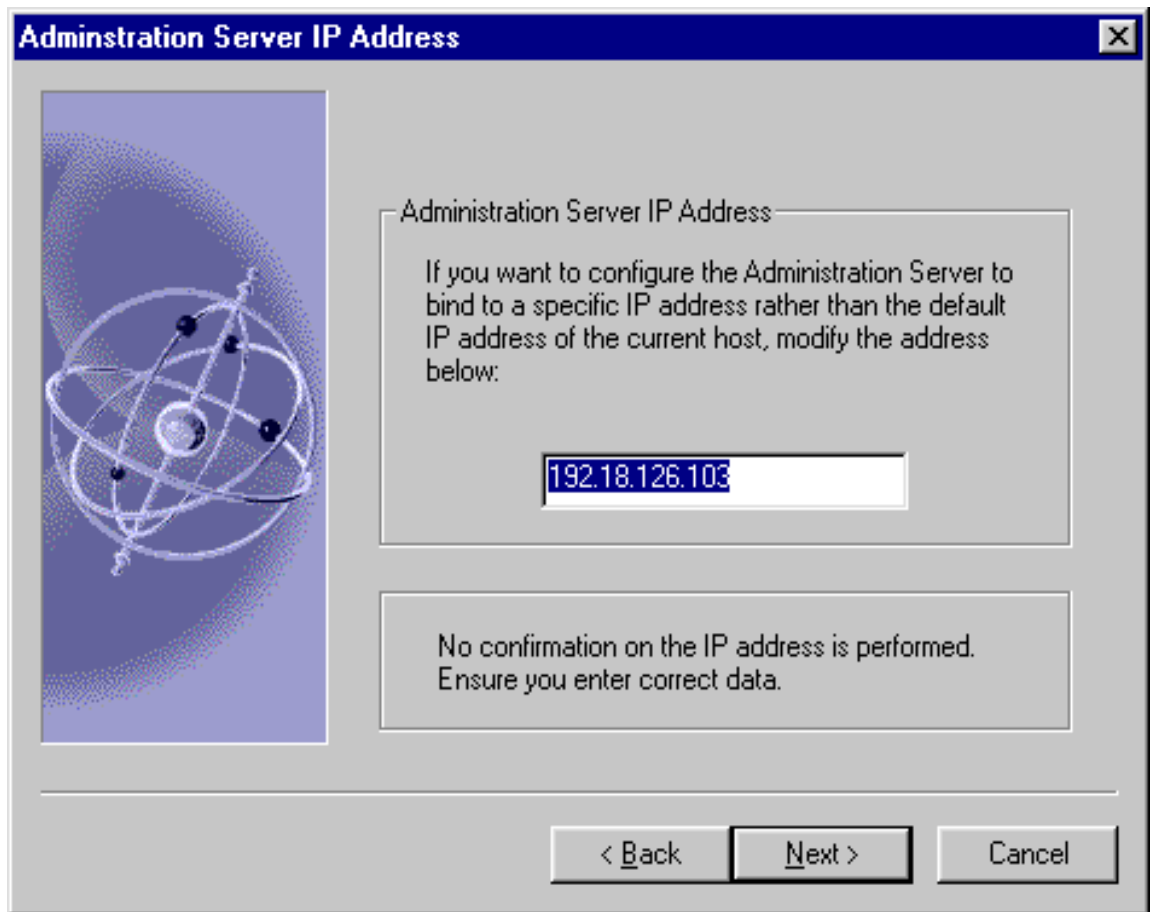


Administration Server に関する質問

この節では、Administration Server に関係した質問について解説します。表示される質問および指定する内容は、選択したインストールシナリオにより異なります。

19. Administration Server の IP アドレス

Administration Server を、現在のホストのデフォルト IP アドレスではなく、特定の IP アドレスにバインドできます。ホストマシンが複数の IP アドレスを保持している場合、Administration Server が使用するアドレスを指定できます。現在のホストのデフォルト IP アドレスが、次の例のように表示されます。



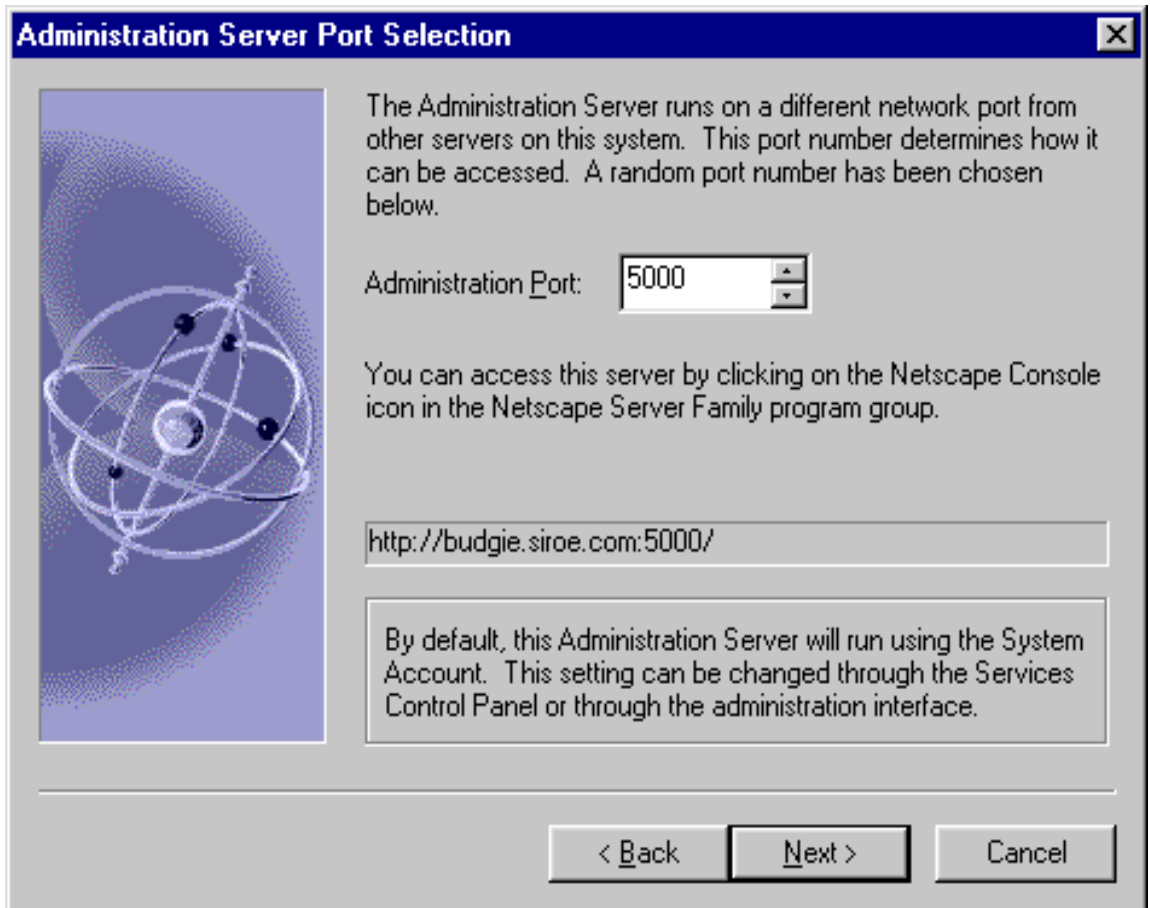
20. Administration Server のポート

Administration Server が待機するポートを指定します。Administration Server は待機するポートが異なるため、ほかのすべてのアプリケーションサーバとは個別に指定します。

Administration Server を実行するポートには、1024 ～ 65535 までの一意の番号を指定することをお勧めします。アプリケーションサーバを実行する予定のポート番号は指定しないでください。

iPlanet Messaging Server インストールチェックリストに、サーバポート情報を記録してください。Netscape Console へのログイン時にこのポート番号を使用します。

注 c:\admin-serv\config\admin.conf を使用してポート番号情報を検索することもできます。



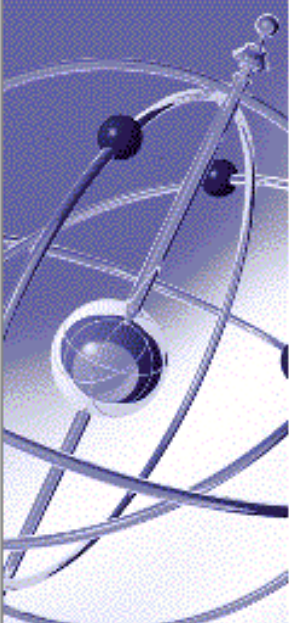
Messaging Server に関する質問

この節では、Messaging Server に関係した質問について解説します。表示される質問および指定する内容は、選択したインストールシナリオにより異なります。

21. Messaging Server の一意の識別子

これは、Messaging Server インスタンスの一意の識別子です。各 Messaging Server インスタンスには、「サーバ ID」と呼ばれる一意の識別子を指定する必要があります。インストールプログラムは、指定された名前に自動的に接頭辞「msg-」を追加します。たとえば、サーバインスタンスに budgie という名前を付けると、インストールプログラムは msg-budgie というサーバ ID を作成します。

Messaging Server Instance Name



The instance name is the unique identifier for this installed Messaging Server. It is customary to use the host name as instance name. However, you may choose any name you wish.

Messaging Server Instance Name

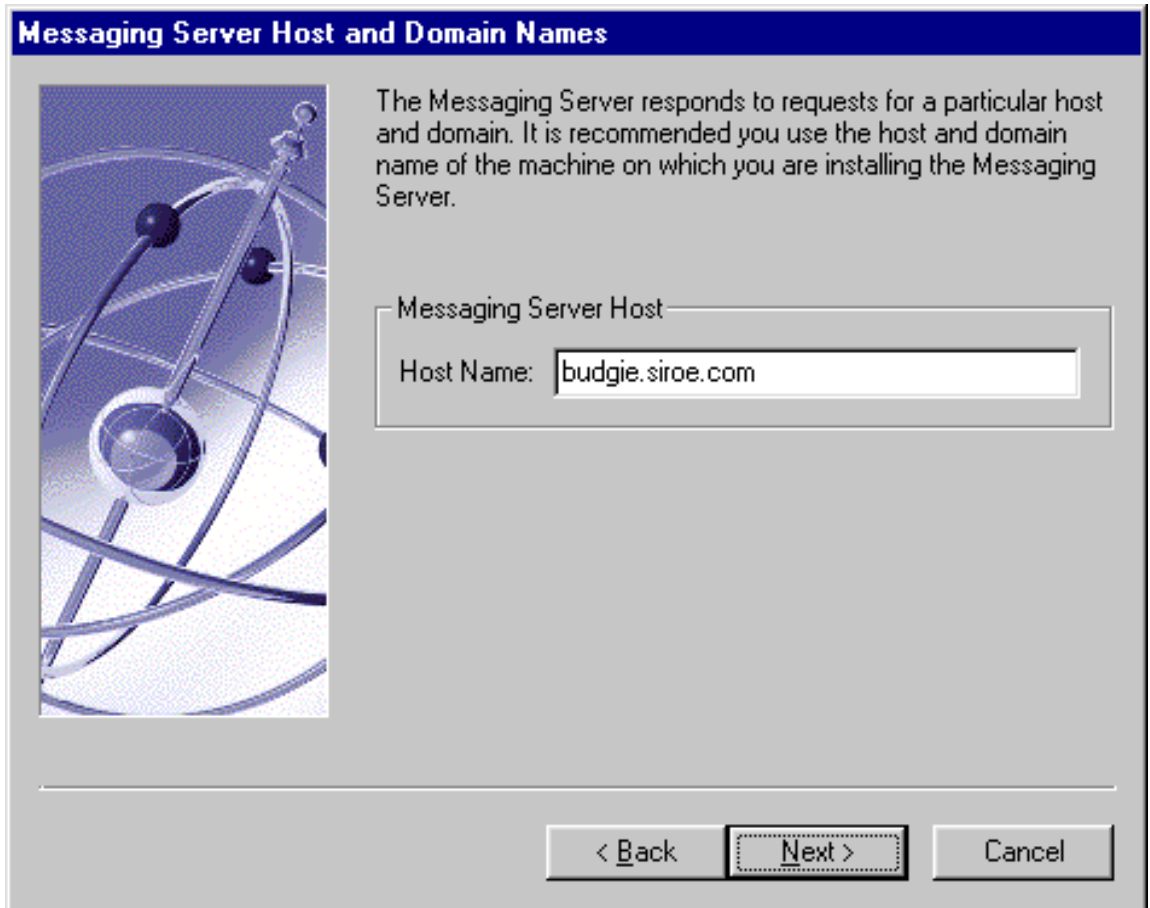
Instance Name:

The instance name will be prefixed with "msg-" to identify the installed server as a Messaging Server.

< Back Next > Cancel

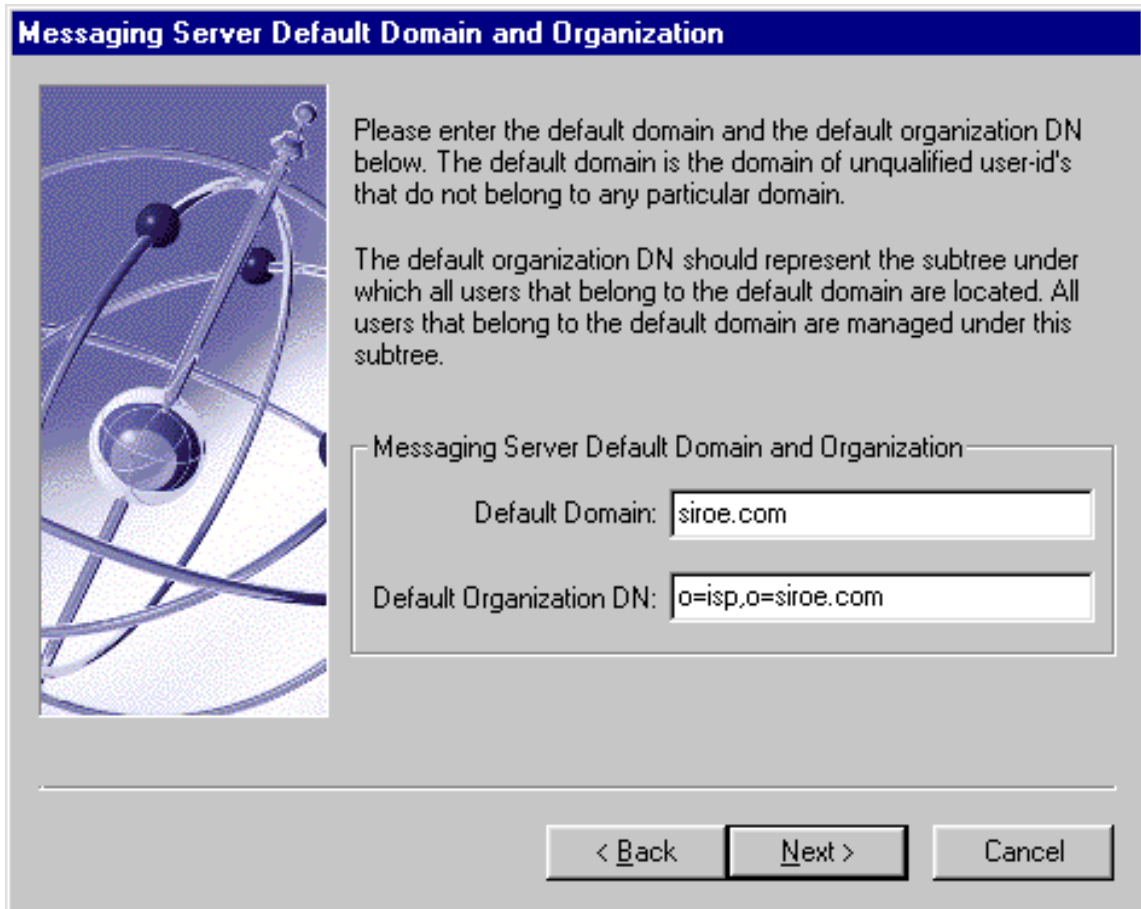
22. Messaging Server のホスト名とドメイン名

これは、Messaging Server が置かれており、そこで Messaging Server によってコマンドが実行されるマシンのホストおよびドメインの名前です。これは、*hostname.domainname* という形式で指定します (例: *budgie.siroe.com*)。



23. Messaging Server のデフォルトドメインおよび組織

この Messaging Server のドメインおよび組織を指定します。デフォルトドメインは、特定のドメインに属さない未修飾のユーザ ID のドメインです。デフォルトの組織 DN は、デフォルトドメインに属するすべてのユーザが置かれているサブツリーを表現します。デフォルトドメインに属するすべてのユーザは、このサブツリー内で管理されます。



Messaging Server Default Domain and Organization

Please enter the default domain and the default organization DN below. The default domain is the domain of unqualified user-id's that do not belong to any particular domain.

The default organization DN should represent the subtree under which all users that belong to the default domain are located. All users that belong to the default domain are managed under this subtree.

Messaging Server Default Domain and Organization

Default Domain:


Default Organization DN:

< Back Next > Cancel

24. Directory Manager の識別名とパスワード

ディレクトリサーバ操作の中には、管理ユーザだけが実行できるものがあります。このユーザは、**Directory Manager** と呼ばれ、通常 `cn=Directory Manager` のバインド識別名 (DN) を保持します。ここでは、**Directory Manager** の識別名およびパスワードを指定します。

Messaging Server Directory Manager Credentials



The Directory Manager DN and password.

Directory Manager

User DN:

Password:

25. iPlanet Delegated Administrator for Messaging Web Server のホスト名とポート

iPlanet Messaging Server は、Delegated Administration Server と共に使用する必要があります。管理者およびエンドユーザは、このアプリケーションを使用して、ユーザアカウントおよびその詳細設定を管理できます。ホスト名は、Delegated Administrator 用の Web サーバを配置するマシンの名前にする必要があります。このマシンは、ローカルでも、リモートでもかまいません。ポート番号には、Web サーバが待機するポートを指定します。デフォルトのポート番号は、8080 です。

注 この時点で、指定するポートおよびサーバに Delegated Administrator サーバが必ずしも存在していなければならないわけではありません。Delegated Administrator サーバは、後でインストールすることもできます。

Delegated Administrator クライアント (コマンドラインユーティリティなど) を、Delegated Administrator とは別のマシンにインストールする場合、Delegated Administrator のインストール時にこの情報を指定するよう求められます。

Messaging Server Delegated Administration Host and Port

The Messaging Server requires the use of a Delegated Administration Server. The Delegated Administration Server is used by administrators and endusers to manage user accounts and their preferences.

Delegated Administration Server Host and Port

Host Name:

Port:

A Delegated Administration Server does not have to exist at the given host and port. It may be installed later.

< Back

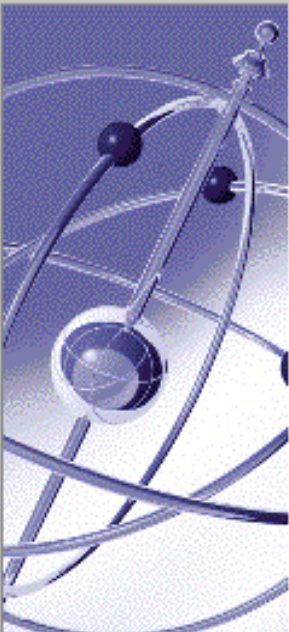
Next >

Cancel

26. Messaging Server のファイアウォール

ファイアウォール配下で Messaging Server を動作させる場合、ファイアウォール越しにメッセージの経路指定を行う機能を持つ Smart Host のホスト名を、完全修飾の書式で指定する必要があります。Messaging Server がメール受信者のアドレスまでの経路を指定できない場合、Messaging Server は、そのメッセージを Smart Host に転送します。

Messaging Server Firewall



The Messaging Server can route mail destined for remote domains through a Smart Host. The Smart Host would then be responsible for routing the mail.

You would need a Smart Host if, for example, the Messaging Server were behind a firewall that prevented it from sending mail directly to the Internet. If you choose to use a Smart Host, you must specify the fully-qualified host name of the Smart Host.

If you do not configure a Smart Host, the Messaging Server will route outgoing mail directly.

Messaging Server Firewall

Yes, the Messaging Server will use a Smart Host.

Smart Host:

No, the Messaging Server will not use a Smart Host.

< Back Next > Cancel

27. プライマリメッセージストアディレクトリ

これは、メッセージ格納領域へのパスです。メッセージは、この領域に書き込まれ、またこの領域から取り出されます。このディレクトリの絶対パス名を指定してください。デフォルトのパス名を次に示します (*server-root* はサーバルート、*serverID* はサーバ ID を示す)。

`c:\server-root\serverID\store\partition\primary`



28. POP3、IMAP、SMTP、および Messenger Express (Web メール) の TCP/IP ポート番号


ここには、ほかのアプリケーションが使用していない、一意のポート番号を指定する必要があります。ポートが使用中の場合、別のポート番号を入力するか、デフォルトを使用します。この場合、**Messaging Server** を起動する前に、このポートを使用しているプロセスを終了させる必要があります。

注 **Typical Installation** を実行すると、いずれかのデフォルトポートが使用中である場合に、このダイアログボックスが表示されます。

デフォルトのポート番号を次に示します。

- POP3 (110)
- IMAP (143)
- SMTP (25)
- Messenger Express (Webmail) (80)

Messaging Server Ports



The Messaging Server uses TCP/IP ports for sending and receiving messages.

Messaging Server Ports

POP3 Port:	<input type="text" value="110"/>	<input type="button" value="▲"/> <input type="button" value="▼"/>
IMAP Port:	<input type="text" value="143"/>	<input type="button" value="▲"/> <input type="button" value="▼"/>
SMTP Port:	<input type="text" value="25"/>	<input type="button" value="▲"/> <input type="button" value="▼"/>
Webmail Port:	<input type="text" value="80"/>	<input type="button" value="▲"/> <input type="button" value="▼"/>

< Back Next > Cancel

29. サービス管理者 (Delegated Administrator のトップレベル管理者とも呼ばれる) のログイン ID とパスワード

これは、Delegated Administrator のトップレベル管理者です。Messaging Server が動作するには、このアカウントが Users and Groups Directory Server 内に存在している必要があります。このユーザには、ディレクトリ内で定義されたユーザ、グループ、ドメイン、ドメイン組織、またはメーリングリストを管理する権限 (作成、変更、削除など) が付与されます。

また、サービス管理者には、暗黙的にストア管理者権限が与えられています。たとえば、プロキシ経由で別のユーザとして認証を受け、メッセージストアの制限値の状態を検査する割り当てステータスの確認などといった、ストア管理者の権限を要する機能を実行できます。

Messaging Server Service Administrator

The Messaging Server requires a Service Administrator account to exist in the Users Directory Server. The account has privileges to manage the various services of the Messaging Server.

Service Administrator

User ID:

User Password:

Confirm Password:

The account will be created and given the necessary privileges.

< Back Next > Cancel

30. Messaging Server のホスト名とドメイン名

ポストマスターグループ (電子メールのグループアドレスなど) は、インストールプログラムにより作成されます。ここでは、ポストマスターグループのメンバーの電子メールアドレスを指定するよう求められます。**Users and Groups Directory Server** のポストマスター宛てのメールはすべて、この電子メールアドレスに送信されます。

注 ポストマスター用に指定した電子メールアドレスは、インストール時に受け付けられます。つまり、ポストマスターグループが追加され、そのポストマスターグループにメールアドレスが追加されます。ただし、指定したメールアドレスが **Directory Server** 内に存在しない場合があります。この場合、**Console** または **iPlanet Delegated Administrator for Messaging** を使用して、この電子メールアドレスに対するユーザアカウントまたはグループアカウントを作成する必要があります。

Messaging Server Postmaster Address



There is no postmaster in the Users Directory Server:

`ldap://budgie.siroe.com:389/o=siroe.com`

A Postmaster alias will be created and used to distribute administrative email related to the Messaging Server. Mail sent to the Postmaster will be distributed to the members of the postmaster group. An email address that will be the initial

Postmaster Email Address

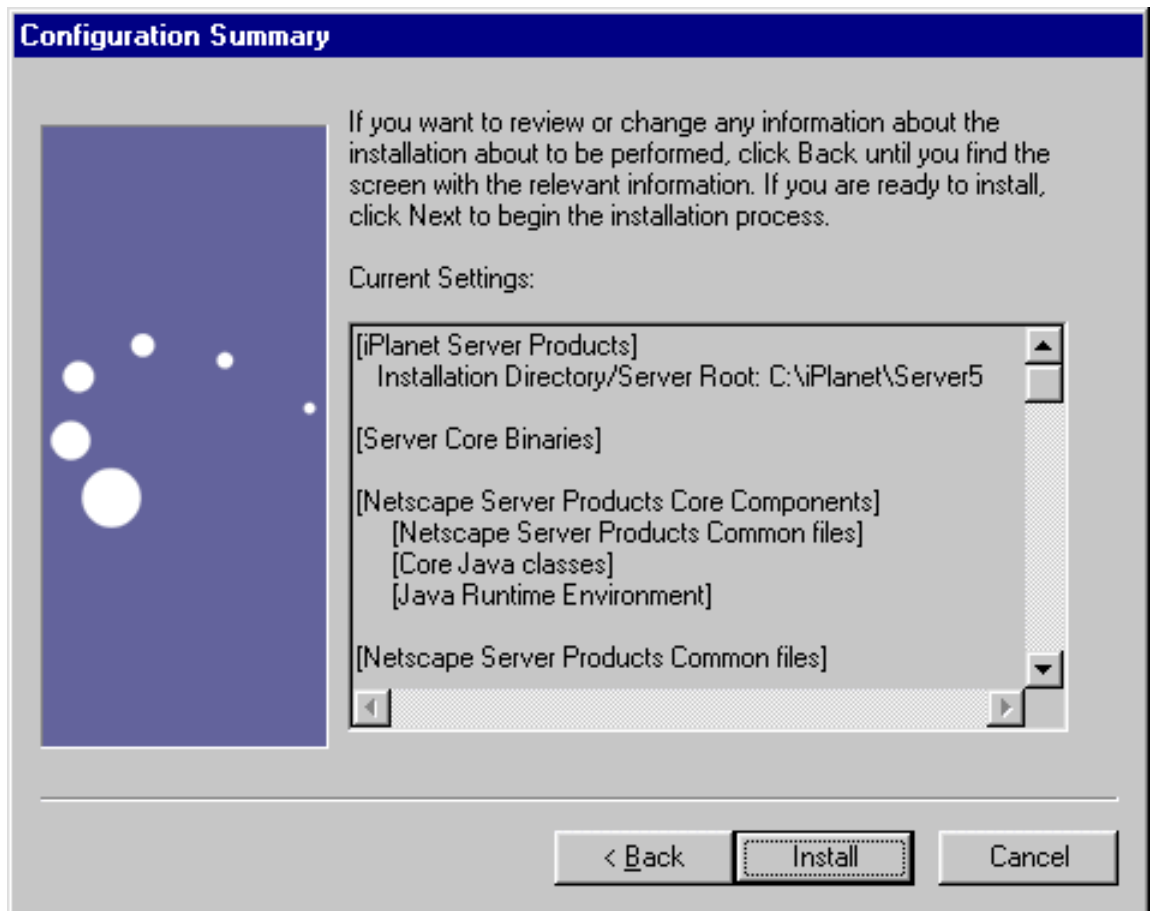
Email Address: `pma@siroe.com`

Do not use an email address that begins with "Postmaster@". This email address is already assigned to the Postmaster alias.

< Back Next > Cancel

31. 構成の要約

最後のインストール画面では、インストールおよび構成パラメータの要約が表示されます。画面には、必要に応じて前の画面に戻り、パラメータを変更することができるという旨のメッセージが表示されています。ただし、戻ることができるのは、[Messaging Server Default Domain and Organization] 画面までです。インストールパラメータの設定が完了したら、[Install] ボタンをクリックして、インストール処理を開始します。imsimta dirsinc コマンドが実行されるまで、インストール中に作成されたメールエイリアスは認識されません。imsimta dirsinc の詳細は、『iPlanet Messaging Server 5.1 リファレンスマニュアル』を参照してください。インストール処理が完了したら、iPlanet Messaging Server およびそのコンポーネントを使用する前に、システムをリブートすることをお勧めします。



Messaging Multiplexor のインストール

この付録は、Windows NT 用の Messaging Multiplexor のインストールおよび設定に関する次の節から構成されています。

- Multiplexor のインストールと構成
- Multiplexor の起動
- メッセージングトポロジの例

Multiplexor のインストールと構成

iPlanet Messaging Multiplexor (MMP) は、複数のメッセージングサーバの単一接続ポイントとして機能する特別なメッセージングサーバです。Multiplexor を利用すると、大規模なメッセージングサービスプロバイダは、POP および IMAP のユーザメールボックスを多数のマシン間に分散してメッセージング容量を増やすことができます。すべてのユーザは単一の Multiplexor サーバに接続し、それぞれの接続は、そのサーバから適切なメッセージングサーバに転送されます。

Messaging Server のインストール時に、MMP も同時にインストールできます。また、setup プログラムを使用して、Messaging Server をインストールした後に MNP をインストールすることもできます。どちらの方法でインストールする場合も、まず、MMP を使用できるようにシステムを準備する必要があります。

注 Messaging Server と同じマシンに MMP をインストールする場合は、Messaging Server の Custom Installation を実行する必要があります。Custom Installation (カスタムインストール) では、POP サーバおよび IMAP サーバを標準以外のポートに設定できます。標準以外のポートを使用すれば、MMP サーバと Messaging Server のポートが互いに競合しません。

MMP の詳細は、次のマニュアルで参照できます。

- 『iPlanet Messaging Server 5.1 管理者ガイド』
- 『iPlanet Messaging Server 5.1 リファレンスマニュアル』

インストールの前に

MMP をインストールする前に、次の手順を実行します。

1. MMP をインストールするマシンを選択します。MMP 専用のマシンを使用することをお勧めします。

注 Messaging Server または Directory Server を実行するマシンには、MMP をインストールしないことをお勧めします。

2. システムが、iPlanet Messaging Server を使用するためのハードウェアおよびソフトウェアの要件をすべて満たしていることを確認します。インストール要件は、15 ページの「システム要件」を参照してください。

3. Messaging Server で使用する LDAP Directory Server とホストマシンの設定が完了していない場合は、それらを設定します。詳細は、Directory Server のマニュアルを参照してください。
4. 古いバージョンの MMP がインストールされていて、それを新しいバージョンに置き換える場合は、新しいバージョンの MMP をインストールする前に、古いバージョンを削除する必要があります。古いバージョンの MMP を削除するには、*server-root* にある `uninstall` プログラムを実行します。

Multiplexor のファイル

Messaging Multiplexor のファイルは、*server-root* の *mmp-hostname* サブディレクトリにあります (*hostname* はホスト名を示す)。各 MMP インスタンスには、固有の *mmp-hostname* ディレクトリが作成され、表 A-1 に示したファイルがそのディレクトリに格納されます。

表 A-1 Messaging Multiplexor のファイル

ファイル	説明
PopProxyAService.cfg	POP サービスで使用される環境変数を指定する構成ファイル
ImapProxyAService.cfg	IMAP サービスで使用される環境変数を指定する構成ファイル
AService.cfg	開始するサービス、および POP と IMAP の両方のサービスが共有するいくつかのオプションを指定する構成ファイル
AService.exe	MMP の開始、停止、再起動、および再読み込みに使用する実行可能プログラム。詳細は、108ページの「Multiplexor の起動」を参照してください。

Multiplexor のインストール

MMP をインストールするには、Messaging Server の `setup.exe` プログラムを使用する必要があります。このプログラムには、Messaging Multiplexor をインストールするかどうかを選択するオプションがあります。`setup.exe` プログラムの詳細は、36 ページの「`setup` プログラムの実行」を参照してください。

注 デフォルトでは、MMP はインストールされません。したがって、Messaging Server と共にインストールする Messaging Server アプリケーションコンポーネントの選択時に、MMP を選択する必要があります。

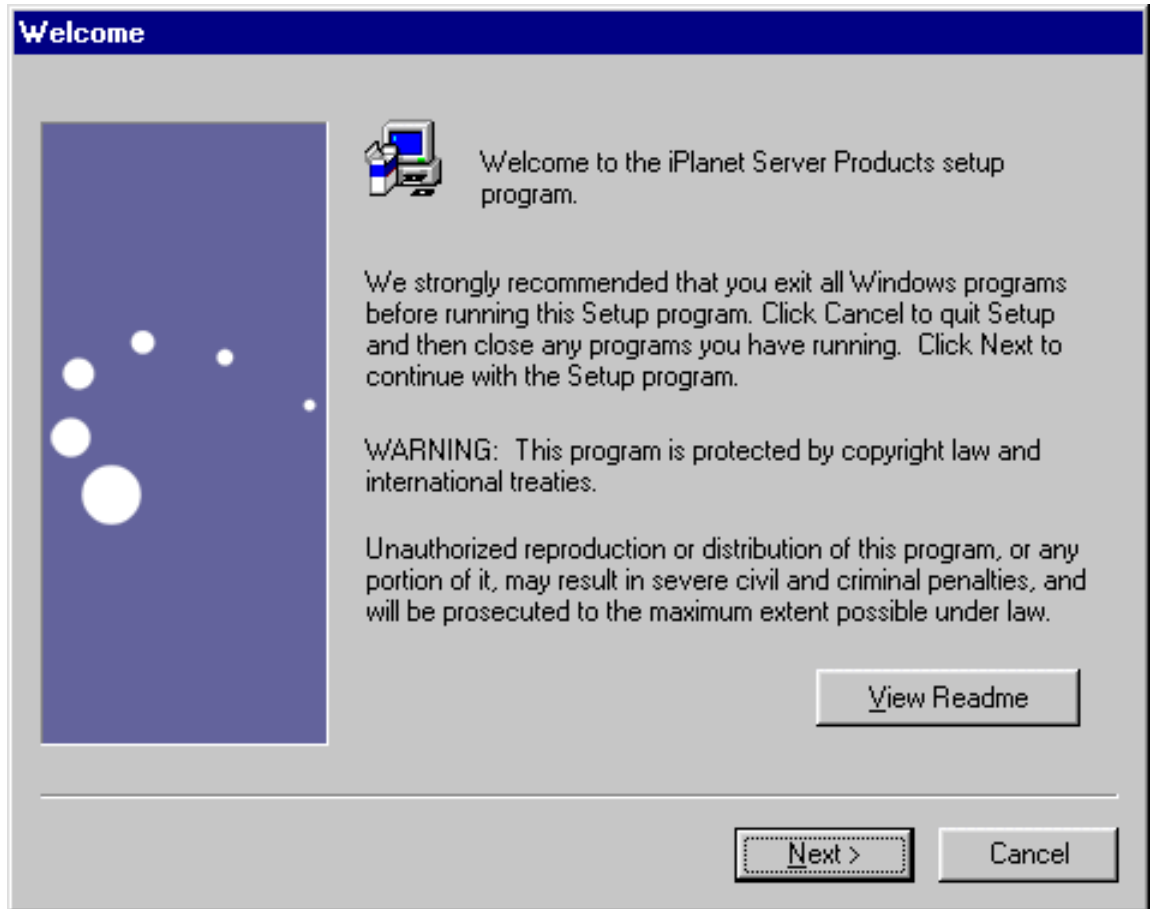
MMP を単体でインストールする場合は、次の手順に従います。

1. Windows NT の管理者としてログインします。
インストールプログラムを実行するには、スーパーユーザの権限を持っている (管理者としてログインする) 必要があります。
2. インストールバイナリから `setup` コマンドを実行します。必要であれば、オプションパラメータ (36 ページの表 2-1 を参照) を使用してください。

注 サイレントインストールを実行する場合は、`setup` コマンドを、`-k` オプションを指定して実行する必要があります。これにより、サイレントインストールで使用する `install.inf` というファイルが作成されます。詳細は、36 ページの「`setup` プログラムの実行」を参照してください。

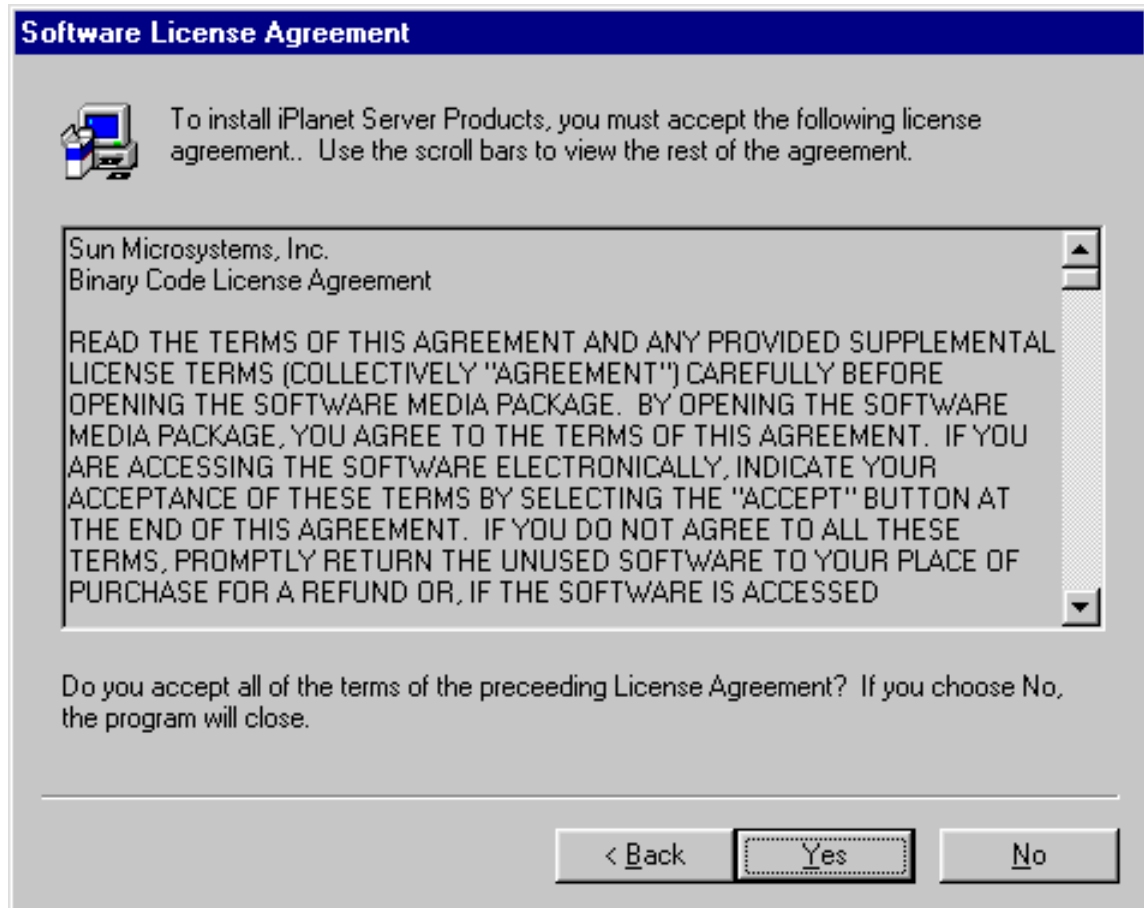
3. 開始画面

最初に表示される画面です。必ずこの画面の内容を読み、[Next] をクリックして、MMP のインストールを続けてください。



4. 使用許諾契約

MMP のインストールプロセスで、インストールバイナリの LICENSE.txt ファイルにある使用許諾契約の記載条項に同意するかどうかを尋ねられます。使用許諾契約を読み、[Yes] をクリックして、インストールを続けます。



5. サーバまたはコンソールのインストールの選択

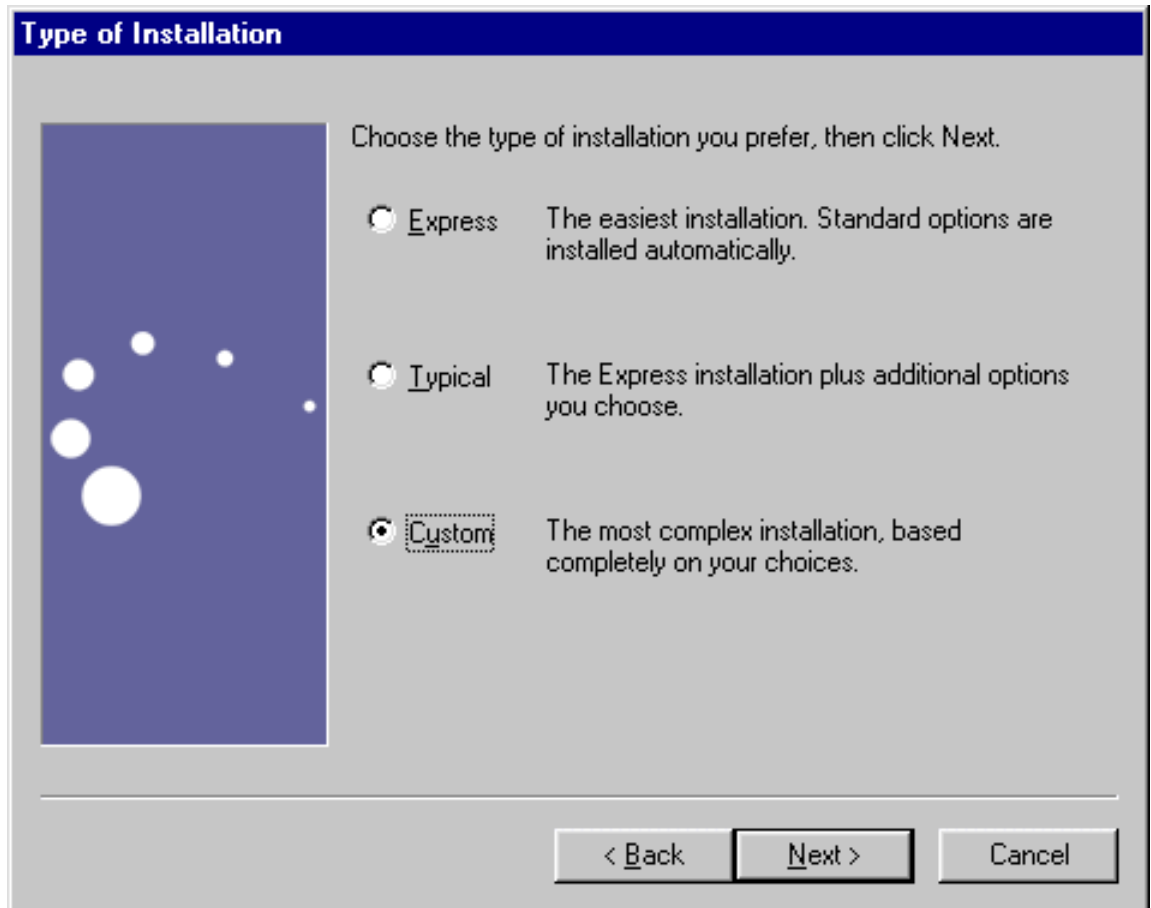
iPlanet サーバ (iPlanet Console および関連コンポーネントを含む) をインストールするか、iPlanet Console (Netscape Console と呼ばれる) のみをインストールするかを選択します。MMP をインストールする場合は、[iPlanet Servers] を選択します。



6. インストールタイプ

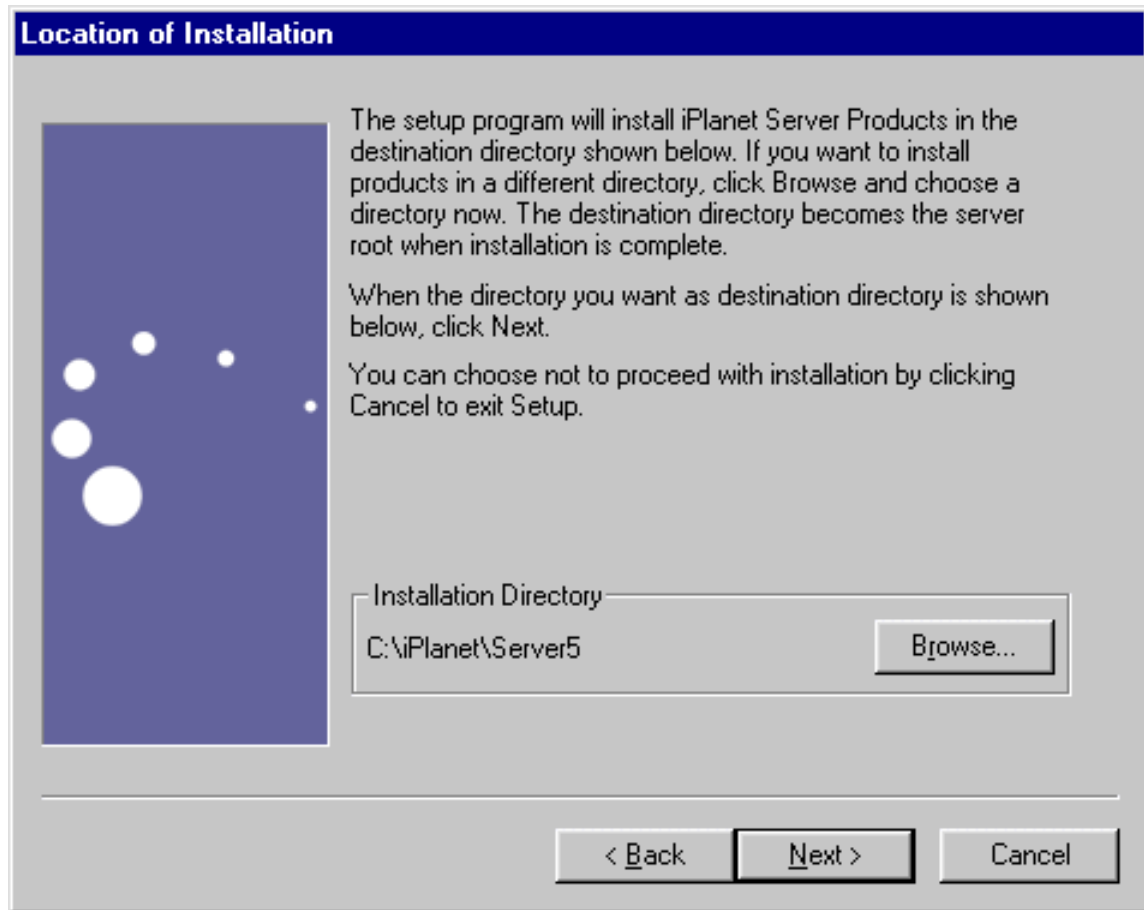
使用するインストールタイプを選択します。MMP のインストールでは、Express Installation (高速インストール) は選択できません。Typical Installation または Custom Installation のどちらかを選択します。ただし、Messaging Server と MMP を同じマシンにインストールする場合は、POP サーバおよび IMAP サーバを標準以外のポートに設定するために、Custom Installation を選択する必要があります。

- **Typical Installation :** このインストールタイプは、指定を求められる設定オプションと自動的に設定される構成オプションが適度に織り交ぜられています。これは、デフォルトのタイプです。
- **Custom Installation :** このインストールタイプは、構成オプションの数が多く、熟練したユーザを対象とします。インストールタイプの選択後、選択したインストールタイプに応じて、インストールおよび構成に関する情報を入力します。



7. インストール場所 (server-root)

[Browse] をクリックして、インストール場所を指定します。デフォルトの場所を使用する場合は、[Next] をクリックします。



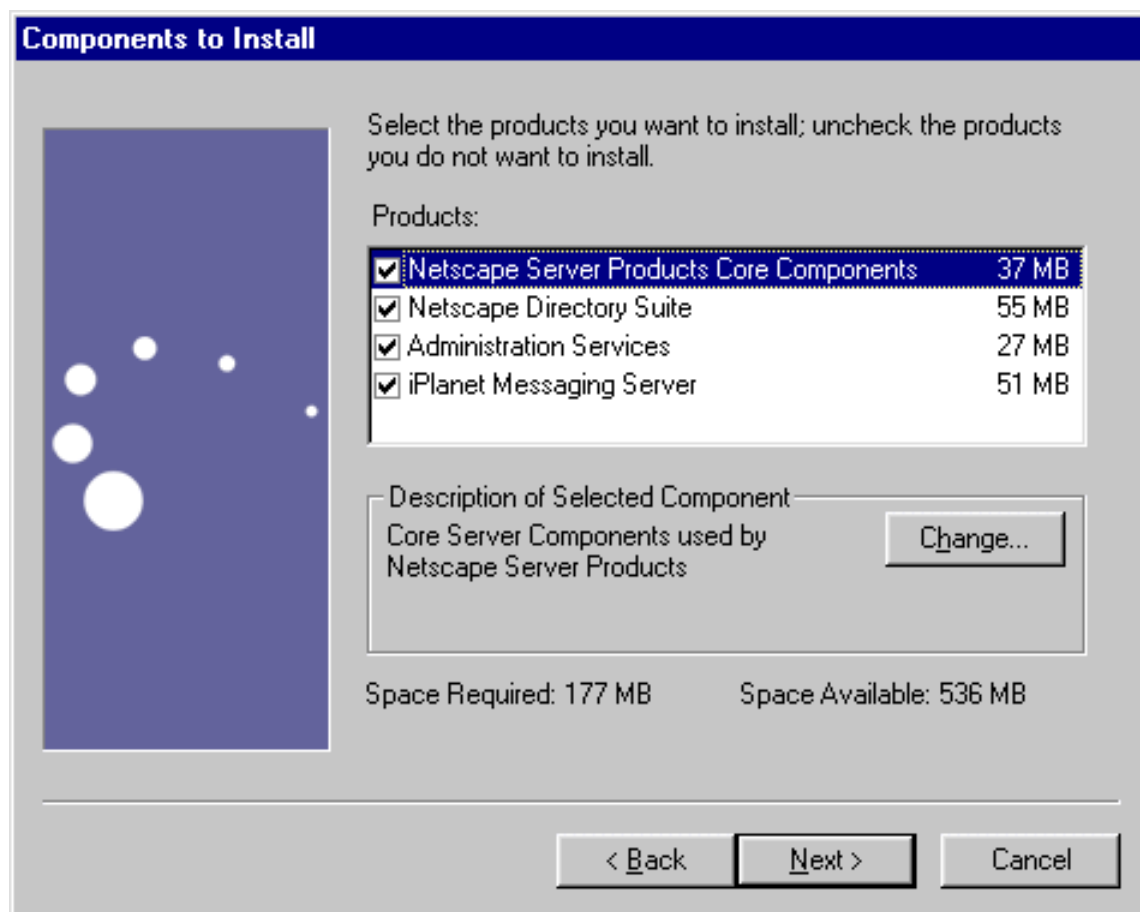
8. Netscape Server 製品のコンポーネント

Messaging Server 製品群のうち、どの製品をインストールするかを指定します。各製品およびコンポーネントの詳しい説明は、17 ページの「インストールコンポーネント」を参照してください。

MMP のインストールでは、[iPlanet Messaging Server] コンポーネントを選択し、次に、[Change] をクリックして、MMP を選択します。MMP を単体でインストールする場合は、必ず、[iPlanet Messaging Server] コンポーネントのチェックマークを外してから、[Change] をクリックし、MMP を選択する必要があります。

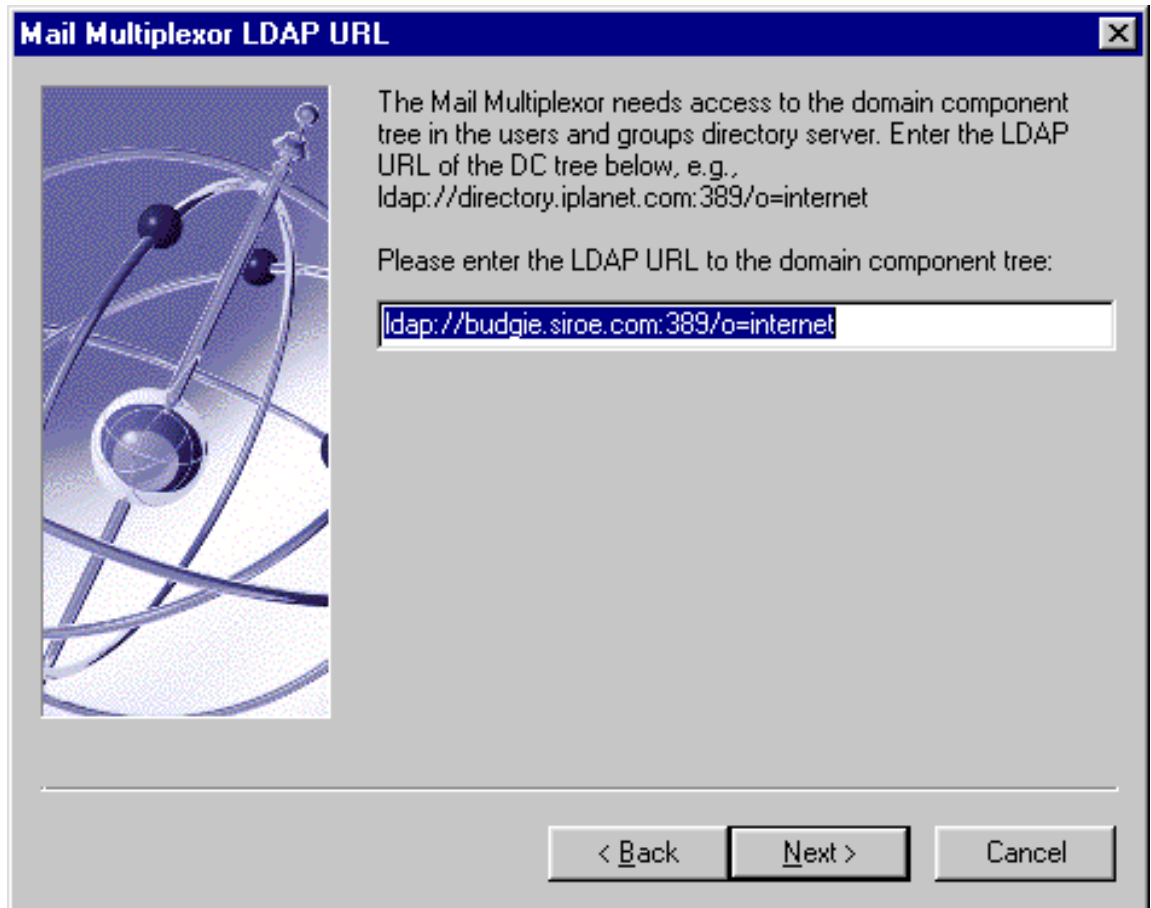
iPlanet Messaging Server コンポーネントには、Messaging Server、iPlanet Internet Message Transport Agent、および iPlanet Messaging Multiplexor が含まれています。

MMP を単体でインストールする場合は、サブコンポーネントの中で iPlanet Messaging Multiplexor のみが選択されていることを確認してから、[Next] をクリックします。



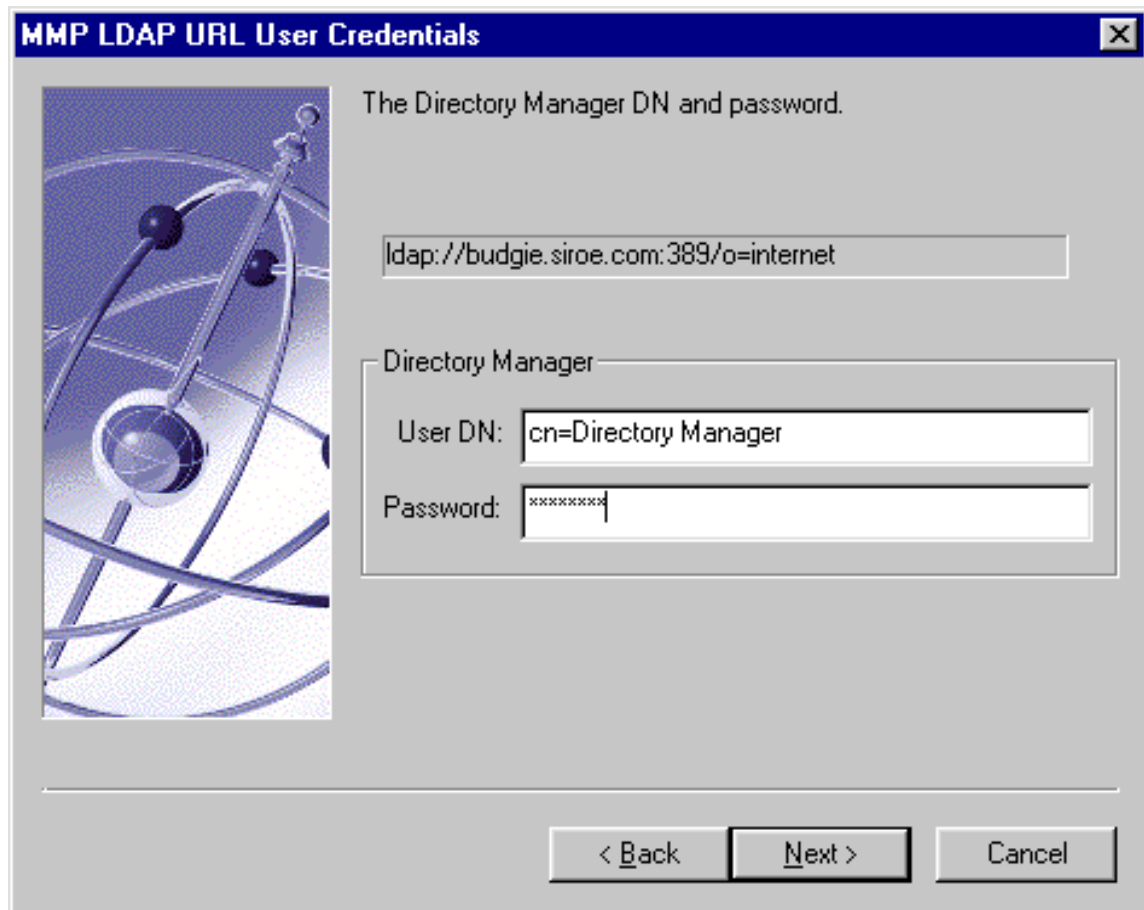
9. MMP の Users and Groups Directory の URL

DC ツリーの LDAP URL を入力して、MMP からユーザおよびディレクトリサーバ (Users and Groups Directory Server) の DC ツリーにアクセスできるようにします。通常は、「ldap://<user-group directory server hostname>:port/o=internet」の形式で入力します (<user-group directory server hostname> は Users and Groups Directory Server のホスト名を、port はポート番号を示す)。



10. MMP LDAP URL ユーザ資格

ディレクトリマネージャ (Directory Manager)、または、Users and Groups Directory に読み取りアクセス権を持つ LDAP ユーザのバインド DN とパスワードを入力します。



MMP LDAP URL User Credentials

The Directory Manager DN and password.

ldap://budgie.siroe.com:389/o=internet

Directory Manager

User DN: cn=Directory Manager

Password: xxxxxxxx

< Back Next > Cancel

この時点で、インストールが開始されます。処理の進行に伴って、さまざまなメッセージが表示されます。

SSL を使用した MMP の構成

MMP は、Messaging Server とメールクライアント間の通信方法として、暗号化されていない通信と暗号化された (SSL) 通信の両方をサポートしています。SSL を使用するよう MMP を構成するには、次の手順に従います。

注 ここでは、メッセージストアまたは MTA を持たないマシンに MMP をインストールすることを前提としています。

1. Administration Console、Administration Server、および MMP をマシンにインストールします。

MMP が Messaging Server のメッセージストアとして構成済みの、別のマシン上にある Directory Server を参照するように設定します。
2. `server-root` に移動し、iPlanet Console のアイコンをダブルクリックします。
3. MMP サーバの [Server Group] を開きます。

MMP サーバは表示されず、Administration Server が表示されます。その Administration Server のアイコンをダブルクリックします。
4. [Configuration] タブをクリックし、そのタブ内の [Encryption] タブをクリックします。
5. [Certificate Setup Wizard] をクリックします。

設定ウィザードの画面に従って、証明書要求を設定します。
6. その証明書を [This Server] の証明書としてインストールします。
7. 既存の Messaging Server または Directory Server から、`cert7.db`、`key3.db`、`secmod.db`、および `sslpassword.conf` の各ファイルをコピーします。コピー元のサーバには、同じドメインに対する適切なサーバ証明書と鍵があらかじめインストールされている必要があります。
8. このディレクトリに、`sslpassword.conf` ファイルを作成します。

このファイルには、次の情報が含まれています。

`Internal (Software) Token:password`

この `password` は、証明書設定ウィザード (Certificate Setup Wizard) で指定したパスワードです。
9. `ImapProxyAService.cfg` ファイルを編集して、SSL 設定のコメント記号をすべて削除します。
10. SSL と POP を使用する場合は、`PopProxyAService.cfg` ファイルを編集して、SSL 設定のコメント記号をすべて削除します。

さらに、AService.cfg ファイルを編集して、ServiceList 設定の「110」の後に「|995」を追加してください。

11. ImapProxyAService.cfg ファイルと PopProxyAService.cfg ファイルに、BindDN オプションと BindPass オプションが設定されていることを確認します。

これらのオプション値は、Messaging Server の local.ugldapbinddn オプションと local.ugldapbindcred configutil オプションからコピーできますが、検索権限 (プレーンテキストをサポートするため) または検索権限とユーザパスワードの読み取り権限 (CRAM-MD5/APOP をサポートするため) を持つ新規ユーザを作成することもできます。さらに、デフォルトドメイン (資格のないユーザ名で使用するドメイン) に、DefaultDomain オプションも設定する必要があります。

サーバ側のみで SSL を使用する場合は、これで作業は完了です。コントロールパネルの [サービス] から MMP を起動してください。

クライアント側でも SSL を使用する場合は、以下の手順を実行します。

12. 同じドメインのサーバ証明書がインストールされた Messaging Server または Directory Server に、「Trusted Certificate Authority」をインストールする必要があります。
13. Messaging Server のインストール時に作成したストア管理者 (Store Administrator) を使用します。

詳細は、『iPlanet Messaging Server 5.1 管理者ガイド』を参照してください。

14. MMP の certmap.conf ファイルを作成します。たとえば、次のように入力します。

```
certmap default      default
default:DNComps
default:FilterComps e=mail
```

これは、LDAP サーバの mail 属性を調べて、証明書 DN の e フィールドと一致するものを検索することを意味します。

15. ImapProxyAService.cfg ファイルを編集して、次のように設定します。
 - a. certmap.conf に CertMapFile を設定する
 - b. 手順 13 のストア管理者の情報に StoreAdmin と StorePass を設定する
 - c. Users and Groups Server のツリーに CertmapDN を設定する
16. POP3 によるクライアント証明書を必要とする場合は、PopProxyAService.cfg ファイルに対して、手順 15 の操作を繰り返します。
17. MMP をまだ起動していない場合は、コントロールパネルの [サービス] から起動します。

18. クライアント証明書をクライアントにインポートします。Netscape では、鍵 (セキュリティ) のアイコンをクリックし、[証明書] の [本人] を選択して、次に、[証明書のインポート ...] を選択して画面の指示に従います。

注 システム全体にわたってクライアント証明書を使用する場合は、すべてのユーザがこの手順を実行する必要があります。

追加のインスタンスの作成

最初のインストールの終了後 MMP の新規インスタンスを作成する場合は、Messaging Server の `setup` プログラムを使用します。最初のインスタンスを作成した時と同じインストール手順を実行すると、まったく同じ質問が繰り返されます。`setup` プログラムでは、自動的に `server-root` に新規インスタンスが作成されます。たとえば、`tarpit` というマシンにインストールする場合、最初に作成したインスタンスは、`mmp-tarpit` という名前になり、2 番目のインスタンスは `mmp-tarpit-1` になります。

既存のインスタンスの変更

既存の MMP インスタンスを変更するには、必要に応じて、`ImapProxyAService.cfg` または `PopProxyAService.cfg`、あるいはその両方の構成ファイルを編集します。これらの構成ファイルは、`mmp-hostname` サブディレクトリにあります (`hostname` はホスト名を示す)。

Multiplexor の起動

MMP インスタンスを起動するには、Windows NT のコントロール パネルの [サービス] に移動して、[開始] をクリックします。MMP を停止する場合は、[停止] をクリックします。表 A-2 に、サービスオプションの内容を示します。

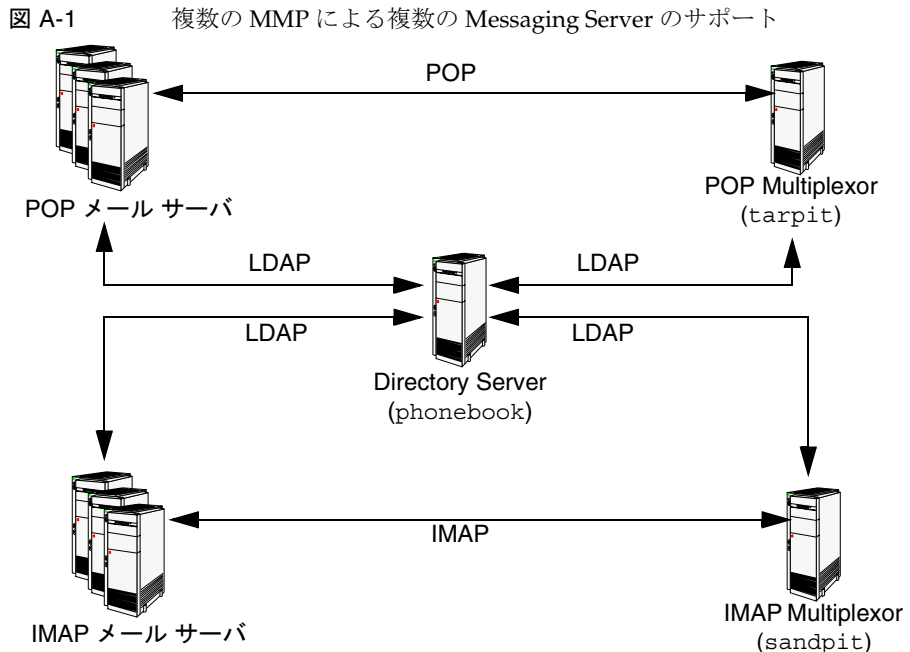
表 A-2 MMP サービスオプション

オプション	説明
start	MMP を起動します (別のインスタンスが起動されている場合でも可能)
stop	最後に起動した MMP を停止します
restart	Windows NT で再起動する場合は、最後に起動した MMP を停止し、その後で MMP を起動します
reload	MMP を再読み込みするには、 <i>mmp-instance</i> ディレクトリに移動し、コマンドプロンプトで「AService refresh」と入力します

メッセージングトポロジの例

Siroe Corporation という会社には、別々のマシンにインストールした 2 つの Multiplexor があり、それぞれの Multiplexor で複数の Messaging Server をサポートしているというシナリオを想定します。POP および IMAP のユーザメールボックスは、複数の Messaging Server 間に分散されており、各サーバは POP 専用または IMAP 専用で使用されています。そのため、IMAP サーバのバイナリを削除すると、クライアントのアクセスを POP サービスのみに制限できます。同様に、POP サーバのバイナリを削除すると、クライアントのアクセスを IMAP サービスのみに制限できます。2 つの Multiplexor も、それぞれが POP のみまたは IMAP のみをサポートしています。LDAP ディレクトリサービスは、別の専用マシンに置かれています。

このトポロジを、図 A-1 に示します。



IMAP の構成例

図 A-1 の IMAP Multiplexor は、2つのプロセッサを持つ `sandpit` というマシンにインストールされています。この Multiplexor は、IMAP 接続の標準ポート (143) を待機しています。この Multiplexor は、ユーザメールボックスの情報を扱うホスト `phonebook` の LDAP サーバと通信し、適切な IMAP サーバに接続を経路指定します。この Multiplexor は、IMAP の Capability 文字列を無効にし、仮想ドメインファイルを提供し、SSL 通信をサポートします。

この例の ImapProxyAService.cfg 構成ファイルを次に示します。

```

default:LdapUrl          ldap://phonebook/o=Siroe.com
default:LogDir           c:\iplanet\server5\mmp-sandpit/log
default:LogLevel        5
default:BindDN           "cn=Directory Manager"
default:BindPass         secret
default:BacksidePort    143
default:Timeout         1800
default:Capability       "IMAP4 IMAP4rev1 ACL QUOTA LITERAL+ NAMESPACE
UIDPLUS CHILDREN LANGUAGE XSENDER X-NETSCAPE XSERVERINFO AUTH=PLAIN"
default:SearchFormat    (uid=%s)
default:SSLEnable       yes
default:SSLPorts        993
default:SSLSecmodFile   c:\iplanet\server5\mmp-sandpit\secmod.db
default:SSLCertFile     c:\iplanet\server5\mmp-sandpit\cert7.db
default:SSLKeyFile      c:\iplanet\server5\mmp-sandpit\key3.db
default:SSLKeyPasswdFile ""
default:SSLCipherSpecs  all
default:SSLCertNicknames Siroe.com Server-Cert
default:SSLCacheDir     c:\iplanet\iplanet\server5\mmp-sandpit
default:SSLBacksidePort 993
default:VirtualDomainFile c:\iplanet\server5\mmp-sandpit\vdmap.cfg
default:VirtualDomainDelim @
default:ServerDownAlert "your IMAP server appears to be temporarily out of
service"
default:MailHostAttrs   mailHost
default:PreAuth         no
default:CRAMs           no
default:AuthCacheSize   10000
default:AuthCacheTTL    900
default:AuthService     no
default:AuthServiceTTL  0
default:BGMax           10000
default:BGPenalty       2
default:BGMaxBadness    60
default:BGDecay         900
default:BGLinear        no
default:BGExcluded      c:\iplanet\server5\mmp-sandpit\bgexcl.cfg
default:ConnLimits      0.0.0.0|0.0.0.0:20
default:LdapCacheSize   10000
default:LdapCacheTTL    900
default:HostedDomains   yes
default:DefaultDomain   Siroe.com

```

POP の構成例

図 A-1 の POP Multiplexor は、4つのプロセッサを持つ tarpit というマシンにインストールされています。この Multiplexor は、POP 接続の標準ポート (110) を待機しています。この Multiplexor は、ユーザメールボックスの情報を扱うホスト phonebook の LDAP サーバと通信し、適切な POP サーバに接続を経路指定します。さらに、この Multiplexor は、スプーフメッセージファイルも提供します。

この例の PopProxyAService.cfg 構成ファイルを次に示します。

```
default:LdapUrl          ldap://phonebook/o=Siroe.com
default:LogDir           c:\iplanet\server5\mmp-tarpit\log
default:LogLevel        5
default:BindDN           "cn=Directory Manager"
default:BindPass         password
default:BacksidePort    110
default:Timeout          1800
default:Capability       "IMAP4 IMAP4rev1 ACL QUOTA LITERAL+ NAMESPACE
UIDPLUS CHILDREN LANGUAGE XSENDER X-NETSCAPE XSERVERINFO AUTH=PLAIN"
default:SearchFormat     (uid=%s)
default:SSEnable         no
default:VirtualDomainFile c:\iplanet\server5\mmp-tarpit\vdmap.cfg
default:VirtualDomainDelim @
default:MailHostAttrs    mailHost
default:PreAuth          no
default:CRAMs            no
default:AuthCacheSize    10000
default:AuthCacheTTL     900
default:AuthService      no
default:AuthServiceTTL   0
default:BGMax            10000
default:BGPenalty        2
default:BGMaxBadness     60
default:BGDecay          900
default:BGLinear         no
default:BGExcluded       c:\iplanet\server5\mmp-tarpit\bgexcl.cfg
default:ConnLimits       0.0.0.0|0.0.0.0:20
default:LdapCacheSize    10000
default:LdapCacheTTL     900
default:HostedDomains    yes
default:DefaultDomain    Siroe.com
```

メッセージングトポロジの例

uninstall プログラムの使用

この付録では、既存の Messaging Server インスタンスをマシンから削除する方法を説明します。

注 uninstall プログラムは、ログファイル、サイレントインストールファイル、メールボックスの削除は一切行いません。これらの削除は、手動で行う必要があります。

uninstall プログラムは、Messaging Server ファイルのインストール先ディレクトリにあります。アンインストールは、次の手順で実行します。

1. 管理者 (Administrator) としてログインします。
uninstall プログラムを実行するには、スーパーユーザ権限 (つまり管理者としてログインすること) が必要です。

2. *server-root* ディレクトリに移動します。

注 Directory Server は手動では停止しないでください。uninstall プログラムは、Directory Server が稼動していることを想定しています。Directory Server の停止処理は、uninstall プログラムが行います。

3. uninstall プログラムを実行します。
server-root ディレクトリの *uninstall.exe* をダブルクリックするか、コントロールパネルの [アプリケーションの追加と削除] を選択します。
4. uninstall プログラムにより、次の情報を指定するよう求められます。
 - アンインストールする Netscape Server Family Core、Netscape Administration Suite、および iPlanet Messaging Server コンポーネントをクリックします。アンインストール可能なコンポーネントおよびサブコンポーネントについては、20 ページの表 0-1 を参照してください。

- 構成管理者 (Configuration Administrator) としてログインし、パスワードを入力します。

この時点で、`uninstall` は、指定されたさまざまなコンポーネントをシステムから削除し始めます。

これで、**Messaging Server** インスタンスの削除が完了しました。

ただし場合によっては、`uninstall` が、すべてまたは一部のインストールファイルを削除できないことがあります。その場合は、残ったファイルを確認して、手動で削除してください。同じインスタンスを再インストールする場合は、`system32` ディレクトリの `msgregistry.inf` ファイルに、以前の **Messaging Server** インスタンスが含まれていないことを確認してください。`msgregistry.inf` ファイルに以前のサーバ情報が含まれている場合は、別のサーバインスタンスをインストールする前に、その情報をファイルから削除してください。

索引

A

- Administration Server, 59
 - IP アドレス, 73
 - コンポーネント, 18
 - Administration Server Console, 18
 - Netscape Administration Server, 18
 - ポート, 74
- AService.exe, 93

C

- Configuration Directory Server
 - LDAP URL, 61
 - 管理者, 65
 - 選択, 24
- Custom Installation (カスタムインストール), 26

D

- Directory Manager DN, 68, 78
- Directory Server
 - Configuration Directory Server の選択, 24
 - 既存の Directory Server の構成, 23
 - サンプル データ, 71
 - スキーマ検査, 72
 - 設定, 64
 - 複製, 69

E

- Enterprise Server、「Web Server」を参照
- Express Installation, 26
 - Netscape サーバまたは Netscape Console のインストール, 55

F

- FAT パーティション, 27

I

- ims_dssetup
 - 手順, 34
- ims_dssetup ユーティリティ, 22
 - インストールの準備, 62, 63
- iPlanet Delegated Administrator for Messaging
 - ソフトウェア要件, 15
 - ホスト名およびポート名, 80
- iPlanet Messaging Applications
 - High Availability (高可用性), 19
 - iPlanet Delegated Administrator Command Line Utilities (CLI), 19
 - iPlanet Message Store and Message Access, 19
 - iPlanet Message Transport Agent (MTA), 19
 - iPlanet Messaging Multiplexor (MMP), 19
- iPlanet Messaging 製品群のコンポーネント

サブコンポーネントの選択, 59
コンポーネント, 19
IP アドレス, 27

J

JRE, 17

M

Messaging Server と Directory Server の新規インストール, 40

Messaging Server のマニュアル, 12

Messaging Server

Smart Host, 82

一意の識別子, 76

インストール先, 22

デフォルトドメインおよび組織, 78

ファイアウォール, 82

ホスト名およびドメイン名, 77

Messaging Server の削除, 113

Messaging 製品群

概略図, 16

Messenger Express アクセス

要件, 15

Messenger Express へのアクセス, 84

MMP, 19

AService.cfg ファイル, 93

AService.exe, 93

ImapMMP.config, 93

ImapProxyAService.cfg ファイル, 93

PopProxyAService.cfg ファイル, 93

SSL 用の構成, 105

インストール前のチェックリスト, 92

開始 / 停止, 108

既存のインスタンスの変更, 107

追加のインスタンスの作成, 107

トポロジの例, 108

msg.registry ファイル, 114

MTA, 19

Multiplexor、「MMP」を参照

N

Netscape Directory Suite, 59

コンポーネント

Netscape Directory Server, 18

Netscape Directory Server Console, 18

Netscape Messenger Express

推奨されるブラウザ, 15

Netscape Server Core, 17, 59

コンポーネント, 17

Java Runtime Environment, 17

Netscape Core Java クラス, 17

Netscape サーバまたは Netscape Console のインストール, 55

Netscape 製品主要コンポーネント, 17

NTFS パーティション, 27

S

server-root, 27, 58

setup プログラム, 36

setup プログラムの実行

setup.exe, 36

Smart Host, 82

SMTP, 84

T

Typical Installation, 26

W

Webmail、「Messenger Express アクセス」を参照
Web Server

- インストール先, 22
- インストールチェックリスト, 30
- バージョン, 14

Windows NT システム アカウント, 27

Windows NT プラットフォーム要件, 15

あ

- アンインストール
 - uninstall.exe, 113

い

- 移行, 8
- インストールコンポーネント, 17
- インストール後
 - 2 番目の Messaging Server にグループを追加する, 47
 - 共通の Users and Groups Directory を使用, 46
- インストールシナリオ, 39
- インストール タイプ
 - カスタム (Custom), 26
 - 高速 (Express), 26
 - サイレント, 26, 37
 - ダイアログボックス, 50
 - 標準 (Typical), 26
- インストールタイプ, 56
- インストール手順, 28
- インストールの前に, 32
- インストールプログラム
 - 含まれている製品, 14

か

- 管理ドメイン, 24, 66
- ガイドライン, 27

き

- 既存データの移行, 8
- 既存の Directory Server, 23
- 既存の Directory Server を使用して Messaging Server をインストールする, 44, 42
- 既存のディレクトリサーバ構成, 29
- 競合, 27

こ

- 構成の要約, 89
- 固定 IP アドレス, 27
- このマニュアルの表記規則, 9
- コンポーネント
 - iPlanet Messaging 製品群のコンポーネント, 19
 - Netscape 製品主要コンポーネント, 17

さ

- サービス管理者, 86
 - 2 番目の Messaging Server にグループを追加する, 47
- サイレントインストール, 26
 - キャッシュ, 37
 - 実行方法, 37
- サブコンポーネント, 59

し

- システム要件
 - ソフトウェア, 15
 - ハードウェア, 15

せ

静的 IP アドレス, 27
製品階層, 20

そ

ソフトウェア要件, 15

た

ダイアログボックス, 50

は

ハードウェア要件, 15
パーティション
 FAT パーティション, 27
 NTFS パーティション, 27

ふ

ファイアウォール, 82
プラットフォーム, 15

ほ

ホスト名およびドメイン名, 27, 77
ポート番号, 21, 84
 IMAP4, 84
 Messenger Express, 84
 POP3, 84
 製品階層および相互の関連性, 21
ポストマスターの電子メールアドレス, 87

ま

マニュアル
 Messaging Server 関連マニュアル, 12

め

メッセージストアディレクトリ, 83

ゆ

ユーザおよびグループディレクトリ, 62

り

リソースの競合, 27